



栃木県の日光街道

地域の皆さんといっしょに、
みちづくり、まちづくりを進めます。



栃木県内の日光街道沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、歴史や文化を生かしたみちづくり、まちづくりを進めています。400年という時を超え、未来への夢をつなげる日光街道。ここ栃木県でも、地域の大切な文化を地域の皆さんといっしょに活力ある「みち」、魅力ある「まち」へ創造していきます。

日光街道ルネサンス21推進委員会

栃木県商工会議所連合会、栃木県観光協会
日光東照宮、下野新聞社、NHK宇都宮放送局
日光市、今市市、宇都宮市、石橋町、上三川町
南河内町、国分寺町、小山市、野木町
国土交通省宇都宮国道事務所、栃木県

【お問い合わせ】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課
〒321-0931 宇都宮市平松町504 TEL.028-638-2185

栃木県土木部道路建設課
〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20 TEL.028-623-2409

日光市建設課
〒321-1492 日光市中鉢石町999番地 TEL.0288-54-1111(代)

今市市建設部道路河川課
〒321-1292 今市市本町1番地 TEL.0288-22-1111(代)

2002.2.03

鉢石宿から今市宿までのウォーキングお疲れさまでした。
「マーズWalk2」は本宿から鉢石宿までです。ご利用ください。

- 4 浄泉寺
元龜3(1572)年に建立されたといわれ如来寺の末寺です。慶安4(1651)年、家光(大猷院殿)の御宝棺が日光山に向かうとき、ここで小休止したといわれます。



行ってみよう!
見どころ
いろいろ

杉並木公園

日光杉並木街道保護と地域の文化を伝承するために整備した公園です。

地域文化を伝承する施設としては、水車や民家を復元しています。今市市では杉線香の生産が盛んです。その動力として、かつては水車が使われていました。また、米きや粉ひきにも水車が利用され、市内に数多くの水車を見ることができました。

民家については、歴史的に価値があり、重要な文化遺産である天保元(1830)年に建てられた旧江連家(約90坪)と、宮尊徳の報徳仕法による住宅である報徳仕法農家(約30坪)の2棟を復元してあります。



① 瀬川の一里塚



江戸から34里目を示す一里塚で、現在道路の左右に残っています。

6 回向庵

江戸時代初期に、如来寺の僧侶の住居として建てられ、享和元年(1801年)に造られた地藏菩薩や子育て地藏尊が祀られています。



7 如来寺

阿弥陀如来を本尊とする浄土宗の寺です。寛永9(1632)年、3代将軍家光が東照宮造営のために如来寺御殿を建設し、ここに逗留しました。



が、
つ
るこ
あ
二
平)

の一里塚

も

2 滝尾神社



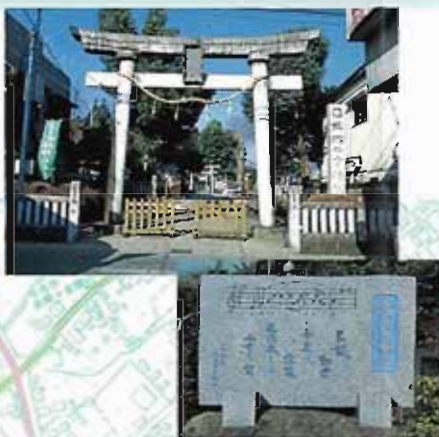
勝道上人が日光に滝尾を祀ると同時に、この地にもこれを祀ったと伝えられています。

3 今市御蔵跡

宿内で消費される米をまかなうために、江戸幕府は下野国内の幕府領で納められた年貢米を集め、今市宿の上町(現在の春日町付近)に建てた米蔵(今市御蔵)に貯蔵し、米問屋を通して売りさばいてきました。この蔵は現在の今市小学校の東側にありましたが、残っているのは門柱の基礎に使われた石だけです。



⑧ 安政3(1856)年10月、二宮尊徳は70歳で今市報徳役所で没しました。尊徳は墓石を建てるなと遺言。この遺言を守りつつ、尊徳の遺徳を偲ぶ人達によって建てられたのがこの神社です。



⑨ 蔵助地蔵



参道入口左側にある首の欠けたお地蔵様は戦国時代の大工 蔵助が建てたものです。移動のため最近掘り起こしました。旧今市村に残存する地蔵菩薩像の中で、最古(1557年作)であることがわかりました。



知って
なるほど! 例幣使街道

例幣使街道は、日光例幣使道ともいいます。日光東照宮の大祭に朝廷から遣わされた例幣使が通行した街道です。道順は倉賀野で中山道と分かれ、玉村、木崎、太田、梁田、天明、栃木を経て楡木(にれぎ)まで23里1町、14宿を例幣使街道とよんでいます。例幣使街道の杉並木は、今市から小倉までの13.9kmです。



歴史の小道

日光参詣の朝参客が来た時に、その物の跡です。

1万余両の費用を費やしています。将いてへりくだつて、杉並木公園の一地名が残っています。

東武上今市駅
ギャラリーと水車のある
木造平屋建て合掌造りの小さな駅です。



⑪ 並木ホテル



七本桜の一里塚に立っています。この空洞の中は大人4人くらいが入れるほど広いので「ホテル」と呼ばれています。

⑫ 桜杉



杉の割れ目に桜の種が落ち、杉の体内を通過して地面に根をおろし、芽を吹いたものです。ちょうど人の背の高さに幹の割れ目があって、そこに山桜が寄生して、一本の木のようになっています。

人の集まりがにぎやか

いま今

日光街道の中で、合流する重要な宿駅。中央には水路が走り、軒あったものの、天保時代です。また、江戸時代、飛脚番が2人いました。もともとは「今村」として、近在の人々からにぎわうようになった。毎月、1の日と6の日、いていたといわれています。しかし、残念なことに、争で、宿のほとんどが、江戸時代のもものは見当た

【主な行事 今市市 祭り】

弓取り童子	中島三所神社(小倉)	3月第2日曜日
岩崎観世音大祭り	岩崎観世音堂(岩崎)	3月最終日曜日
滝尾神社例大祭	今市市内	4月14・15日
今市田植祭り	今市市内(毎年場所移動)	5月第4日曜日
さつき花の祭展	今市宿市緑ひろば	6月上旬
杉並木マラソン大会	日光杉並木街道	8月第1日曜日
報徳神社例大祭	報徳二宮神社(小倉)	11月17日
フリーマーケット	今市宿市緑ひろば	毎月第2土・日曜日



知ってなるほど! 今市市は線香で有名

今市で生産される線香には、杉線香と匂線香があります。杉線香と匂線香の間には、生産量では大差はありませんが、出荷額に占める杉線香の割合は、全体の20%弱にすぎません。これら今市産の線香は、東京を中心に出荷されますが、関東・東北地方が主要な流通区域です。現在、線香、製粉を合わせた今市の線香工業は、約28億円規模の産業になっています。

唐人小屋

群通信使が、日本にやっの宿舎として新造した建物をかけて建設したとい、軍が宿泊する御殿に對小屋と言ったといわれ、部を含んだ地域にこの

⑥ 今市町道路元標



道路元標とは、道路の起点・終点または経過地を表示するもので、現在は国道119号線と相生町(相の道通り)のT字路にあります。設置年代がなく、いつできたのかわかりませんが、法律の制定前からあったものと思われます。

⑩ 追分地藏尊



例幣使と御成の両街道の追分に立つ巨大な石の地藏尊です。はじめ今市宿の如來寺に安置され、さらに寛永2(1625)年に、この追分に移されたといひます。

日光街道

歩く・楽しむ・発見する

御徒マップ

0 100 200 300 400 500m
1:10,000

日光街道杉並木まつり(大名行列)
毎年11月3日に大名行列を中心とした
豪壮な時代絵巻がくり届けられます。

鉢石宿/今市宿 Walk

1

いな市場となった。

市宿

例幣使街道と会津西街道が
交差した。今市宿を通る道の
中心地でした。本陣は中町に一
番近かった。1843年に火事で焼失し
日光と結ぶ通信を取り扱う
場所となった。

といていたのが、宿駅となっ
て移住してきて、市場となり、
そこで「今市」宿となったよう
に日を定めた日として市をたて
ます。

に、慶応4(1868)年の戊辰戦
が焼けてしまい、町並みに江
たりません。



「版本 日光道中絵図 今市」
(栃木県立博物館蔵)



日光街道400年の 「むかし」と「いま」を 同時に歩こう

徳川家康が日光

東照宮に改葬された元和3

(1617)年に街道・宿場がともに整備さ

れたという日光街道。この日光街道は宇都宮
までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥
州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した
道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着し
ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部
として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を
自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、
現在の姿もまた見つめ直して
みませんか。

宿場マップについて

日光街道には江戸干住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで
21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっ
ていました。このマップでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿
から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これら
の宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめ
る様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われて
いる行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介して
あります。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の「むかし」
と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 旧日光街道 | 名所・史跡 | その他のポイント |
| 一般国道 | トイレ | 案内看板等 |
| 主要地方道 | 公園 | 観光案内所 |
| 一般県道 | 駐車場 | 官公庁 |
| 有料道路 | 杉並木 | |

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色
(道は赤の実線。ただし、通行不能区間及び指定がない、いまは両所は廃線)で表示した。

世界遺産登録

1999年12月2日にモロッコで開かれたユネスコ
日光街道の終点とも言うべき日光山内地区の2社
造物群と周囲の文化的景観が、世界遺産に登録さ

登録の内容

◆名称

*日光の社寺

◆世界遺産条約上の区分

*文化遺産

◆登録資産

*建造物群

- にっこう ふたらしんじんしゃ
・日光二荒山神社
- にっこうとうしょうぐう
・日光東照宮
- にっこうさんりんのおうじ
・日光山輪王寺

*遺跡(文化的景観)

- ・日光山内の建造物群周辺の山林地域

◆登録の範囲

*登録資産の面積	50.8ha
*緩衝地帯の面積	373.2ha
*合計	424.0ha

※緩衝地帯とは、指定された世界遺産の保護のために、
その遺産の周囲に設けられる利用制限区域です。

「日光の社寺」世界遺産区域には、国宝が9棟、重要
94棟という、歴史的に価値のある建造物があります。

この中で、国宝と重要文化財に指定されている建築
次の通りです。

*日光二荒山神社 — 23棟が重要文化財

*日光東照宮 — 8棟が国宝、34棟が重要文

*日光山輪王寺 — 1棟が国宝、37棟が重要文

【合計 103

たきのおじんじや
1 滝尾神社



弘仁11(820)年に、弘法大師空海が神霊の降下を祈願し、女神の姿を見て建立したと伝えられる神社で、二荒山神社の別宮です。参道の途中にある二の鳥居(運だめしの鳥居)や、縁結びの笹などで人気があります。

徳川家康公を祀るために、2代將軍秀忠公が元和3(1617)年に創建。その後、3代將軍家光公が1年5ヵ月かけて大改修をし、完成させました。この建築にかかった費用は56万8千両といわれ、現在のお金にして400億円といわれています。陽明門をはじめとして42の建物はすべて、国宝並びに重要文化財の指定を受けています。

4 日光東照宮



●日光の滝

1 滝尾神社



知って
なるほど! **日光という名**

日光という名は、男体山(二荒山)を中心とする山岳信仰の中で生まれてきました。二荒を「にこう」と言っているうちに、「にっこう」となり、それに空海(弘法大師)が「日の光」という字をあてて、太陽信仰をあらわしたという説が有力です。



ふたらのさんじんじや
3 日光二荒山神社

男体山(二荒山)を御神体とする壮大な境内を持つ神社です。8世紀末に、勝道上人が開山してから日光山信仰の中心となってきました。

4 日光東照宮

3 日光二荒山神社

2 大猷院霊廟

5 日光山輪王寺(三仏堂)

6 勝道上人銅像

小杉放電記念
日光美術館

金剛ザクラ

杉並木寄進碑

太郎杉

輪王寺宝物殿

7 神橋



たいきういんれいびやう
2 大猷院霊廟

徳川3代將軍家光公の霊廟。敬愛してやまなかった祖父家康公が祀られた東照宮に寄り添うように建てられている廟で、東照宮に比して落ち着いた色彩・装飾が施されています。



りんかうじ
5 日光山輪王寺(三仏堂)

8世紀末、日光開山の祖、勝道上人が創建した四本竜寺に起源をもつ。空海や円仁(慈覚大師)などが来山したと伝えられ、また、坂上田村麻呂や源頼朝などの武将の信仰を集めて、修験道場、日光山三社権現の信仰の中心として栄えました。

橋のたもともとの小さなお堂には、お地蔵さまが祀まつられていて、はしかになったとこの橋の下をくぐると治るといわれ、名、はしか地蔵ともいいます。

日光市 祭り①

山輪王寺三仏堂 毎年4月2日

変わる古い儀式。式は、修験者の姿をした強飯僧が、3升を、信者から募った強飯頂戴人に差し出し、「75杯1粒もの。強飯頂戴人になって儀式を受けると、無病息災、といわれている。

生岡神社 毎年11月25日

が行われ、こちらは強飯僧や強飯頂戴人を氏子の子供坊(頂戴人)が竹かごを頭にのせていたり、「強飯式に案内手」となまって山盛りの里宇を頂戴人の口に押し込む儀式ならではのユーモアに富んでいる。

毎年4月13日~17日

言葉どおり、毎年4月13日から17日までの5日間にわたり神社の例祭・弥生祭は、山の都・日光に、絢爛たる春を

日光東照宮 表参道 5月18日、10月17日

光へ改葬した時の行列をそのまま再現したもので、表参道、御旅所では、八乙女の舞・東遊舞も執り行われる。



JRH光駅

JR東日本管内で最古の本造建築。夜になるとライトアップされ、白亜の駅舎が幻想的に浮かび上がります。

日光街道の

日光街道の最

と思う人もい

それは、鉢の形

で名づけられ

石が町内にあり

の門前町で、上

保元年(1644)に

本陣は下鉢石

とどめている

んだ反対側にあ

の句碑がありま

と刻まれた句は、

ふと青葉若葉の



街通名物

日光は「ゆば」の町

日光ゆばは豆乳を煮たときにできる薄い膜を引き上げ、幾重にも巻きあげて作られています。水には日光の名水を使ってあり、伝統ある名産品といえます。「湯波」と書き、そもそもは修行僧のたんばく源として、作られてきました。日光の市内で、さまざまなゆば料理を食べることができます。

日光市

1:10,000
0 100 200 300 400

尾立岩の地蔵尊



⑪ 尾立岩

日光街道の西側に迫るような岩場の名。大昔、日光山の本宮権現が蛇の姿となって大谷川を渡ってこの岩の上に乗ったといわれます。尾を空中に立てた、それが名のいわれと伝えられています。

蔵さ
とき、
、別



⑫ 生岡神社

弘法大師が草庵を結び、大日如来をおまつりしたといわれています。子供により演じられる、いわゆる「上野の強飯式」は、同社に古来より伝わる神事です。

⑬ 薬師堂



境内に置いてある石造りの梵鐘。言い伝えでは、明和5(1768)が石の梵鐘も奉納しようとしたが、龍頭が重すぎたために壊れて以来、放置されてきたといわれる。

起点には
なんと石がある

鉢石宿

終宿駅。日光宿といえばよいのに
でしょう。しかし、鉢石宿と言います。
をした石があって、それにちなん
からです。現在も鉢石といわれる
ます。鉢石町は中世からの輪王寺
・中・下鉢石町からなっていて、正
伝馬宿に定められました。

町に2軒ありましたが、今も面影を
は、日光市役所の入口と道をはさ
る高野家だけで、その庭には芭蕉
す。「あらたふと木の下闇も口の光」
、「奥の細道」の中にある「あらた
日の光」と定まる前の句です。



〔版本 日光道中絵図 鉢石〕
〔栃木県立博物館蔵〕



知って なるほど! 日光社参

日光街道は、もともと東照宮の参道
として整備されましたが、「伊勢参りの道」
のような「信仰の道」ではなく、実際は「政
治の道」でした。日光街道の一大イベント
であった將軍社参の行列がそのことを
示しています。この行列は幕府の威光を周
圍や各大名に見せつけるものだったのです。

徳川幕府15代280年間に合計19回の
將軍社参があったといわれます。なかでも、
8代將軍吉宗の社参は、動員された人員が
25万人にもなりました。しかし、これだけ
の規模で日光に到着しても、たった1泊で
帰途に着いたことから、社参を名目にした
軍事演習だったという見方もあります。

鐘が有名で
(8)年、村人
ましたが、そ
れてしまい、
とです。

日光杉並木街道

370年の歴史を見つめる 杉並木



日光といえば杉並木とすぐさま言われるほど、日光
街道の杉並木は有名です。街道筋をずっと歩いて
いくと、文字通り、道の両側に天にまでそびえる緑の
カーテンがあるような気がします

日光杉並木は、日光・例幣使・会津西の3つの街道
あわせて全長37kmの両側にそびえ立ち、その杉並
木数は13,000本弱といわれています。

この杉並木をつくりあげたのは、徳川家康の忠臣
松平正綱で、20年余の年月をかけて20万本あまりの
杉を植え、家康の33回忌にあたる慶安元(1648)年
に日光東照宮に寄進しました。

植え始められてから約370年、樹高30mにもなった
杉の木は、日光街道の来し方の様々な出来事を見
つめつつ、将来へと受け継がれていくことでしょう。

現在、日本で唯一、特別史跡と特別天然記念物の
二重指定を受けています。

また、平成4(1992)年には、ギネスブックは世界一
長い並木道として認定しました。





栃木県の日光街道

地域の皆さんといっしょに、
みちづくり、まちづくりを進めます。



栃木県内の日光街道沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、歴史や文化を生かしたみちづくり、まちづくりを進めています。400年という時を超え、未来への夢をつなげる日光街道。ここ栃木県でも、地域の大切な文化を地域の皆さんといっしょに活力ある「みち」、魅力ある「まち」へ創造していきます。

日光街道ルネッサンス21推進委員会
栃木県商工会議所連合会、栃木県観光協会
日光東照宮、下野新聞社、NHK宇都宮放送局
日光市、今市市、宇都宮市、石橋町、上三川町
南河内町、国分寺町、小山市、野木町
国土交通省宇都宮国道事務所、栃木県

【お問い合わせ】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課
〒321-0931 宇都宮市平松町504 TEL.028-638-2185

栃木県土木部道路建設課
〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20 TEL.028-623-2409

今市市建設部道路河川課
〒321-1292 今市市本町1番地 TEL.0288-22-1111(代)

宇都宮市建設部道路建設課
〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5 TEL.028-632-2222(代)

2004.08.002

大沢宿から徳次郎宿までのウォーキングお疲れさまでした。

〔版本 日光道中絵図 徳二良（徳次郎）〕
〔栃木県立博物館蔵〕



3宿で1つの宿 とくじら 徳次郎

徳次郎宿は江戸から18番目の日光側から上徳次郎宿・中徳次郎宿・下徳次郎宿の3つの宿場に分かれていました。宿だけが人馬の継立を行っていたの願いによって享保13(1728)年、徳次郎にも宿場が置かれたと伝えられています。とはいえ、3つの宿場が常設されたのではなく、一月の上10日を上徳次郎宿、下10日を下徳次郎宿で人馬継立の役目を果たしていました。地名の由来は、日光に大きな勢力をもち、徳次郎氏の一族が奈良時代末期に日光に神体を智賀都神社に勧請し、日光に対して外久次郎氏を称したことに由来しています。

②十九

日光
西側
保1
輪観

いしなだぜき
① 石那田堰

嘉永5（1852）年、二宮尊徳の指導で築かれた用水です。現在のものは河川の改修で当時のものではありませんが、近くには二宮尊徳の像とともに移築記念碑があります。



たけのこ
④ 宝木用水（二宮堰）



宿場？
宿

宿場ですが、ここは日光宿・下徳次郎宿という宿場です。もともとは上徳次郎宿でしたが、中・下の村からの中徳次郎と下徳次郎宿に分割されています。

日光に人馬継立を行って日光宿と中徳次郎宿、中10日宿に割り当て、交代で利用されたのです。

日光を誇っていた久次郎が日光二荒山神社から日光の宗家・久次郎氏に由来するといわれます。

石那田八坂神社

① 石那田堰

③ 六本木の一里塚

② 十九夜塔



十九夜塔

街道をはさみ、六本木の一里塚の向かいにあります。この石仏は天明1（1840）年の銘が刻まれた如意輪菩薩です。



ろっばんざ
⑤ 六本木の一里塚

「石那田の一里塚」とも呼ばれ、江戸から30里目の一里塚です。今の塚は東側だけが残し、修復整備されたものです。塚の上には樹木の代わりに、石の標柱が建てられています。



宝木用水(二宮堰)

宝龜9(778)年に始まるといわれる歴史ある神社で、徳川將軍家の崇敬社としても寄進を受けていました。境内にある2本のケヤキは樹齢約700年といわれ、県指定天然記念物になっています。



⑨ 薬師堂の石仏



5 智賀都神社

徳次郎六本杉

7 瘧地藏堂

9 藥師

8 田中道の道標

⑥ 神明宮

徳次郎.C



街道物名

蜜たっぷりの
宇都宮のりんご

りんごといえば、青森や長野が有名ですが、宇都宮のりんごは、その気候条件の良さから自然に「りんごの蜜」が多くなり、甘くておいしくなるのです。徳次郎付近の日光街道沿いにはりんご園が並び、9～11月がシーズンです。

⑥ 神明宮 しんめいぐう

奈良時代に建立された古社です。境内の2頭の狛犬に願をかけ、軽く持ち上げれば願いが叶うという言い伝えがあります。



あどじぞうどう
⑦ 慈地蔵堂

アザやイボに困っている。と聞くと直ちに治るといいます。以前は日光街道沿いでしたが、平成6(1994)年お堂がつくられ、移されました。

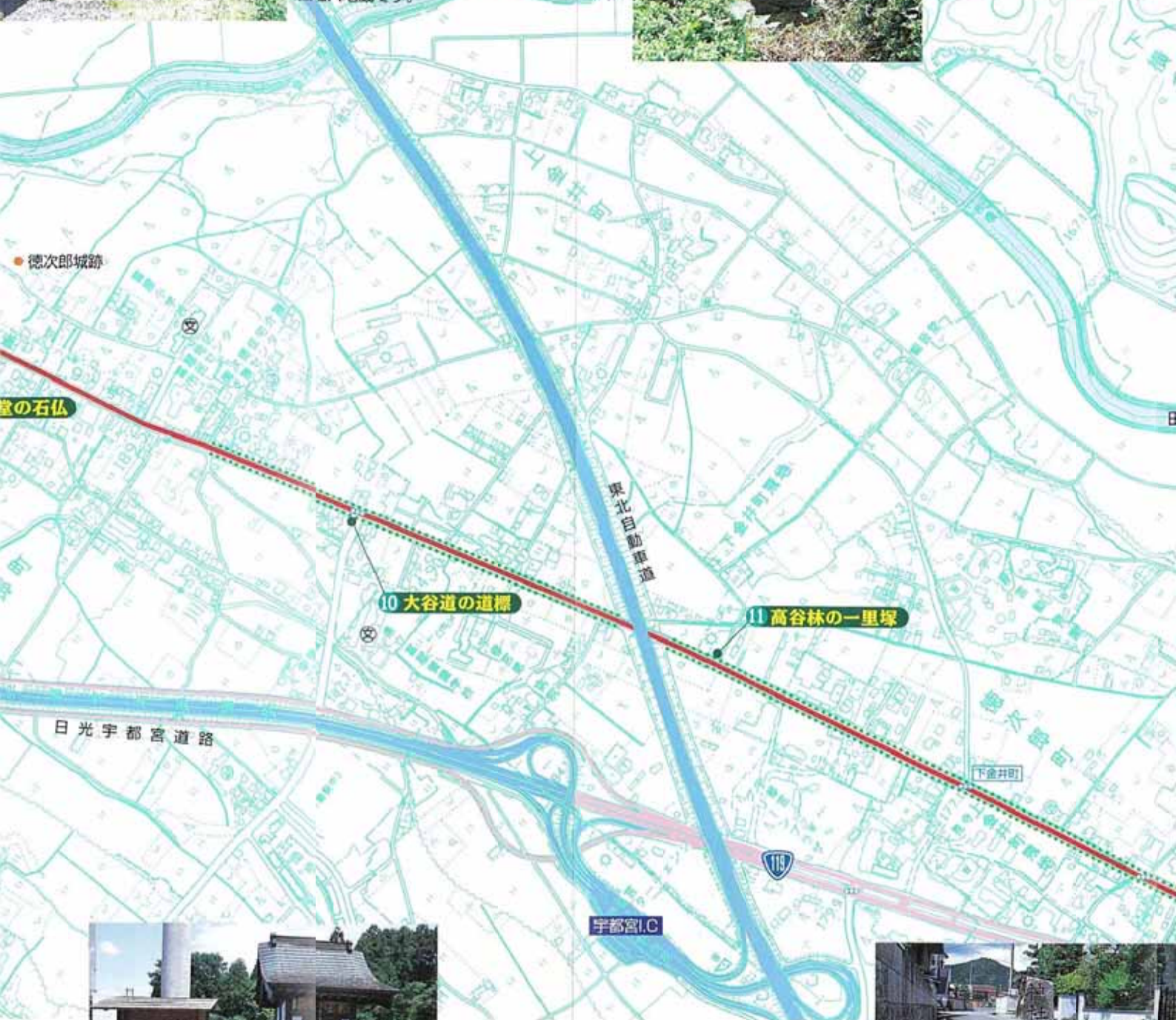


右側の馬頭観音の側面には「右 山道 左 氏家・白沢道」と刻まれ、道標を兼ねていました。中央は如意輪観音が陽刻された十九夜塔で、左側は宝塔づくりの六面壇六地藏です。

10 大谷道の道標



交差点内にあり「大谷道」「下徳次郎宿」と刻まれています。かつては、ここから大谷観音へ行く道がありましたが、現在は廃道になっています。



人が願をか
お地藏さま
いにありま
年に新しく
した。



8 田中道の道標

「神社入口道約五丁 田中道」と刻まされています。この道標付近には、かつて中徳次郎宿の本陣と問屋場があったと思われます。



歩く・楽しむ・発見する

日光街道

御徒マヅ

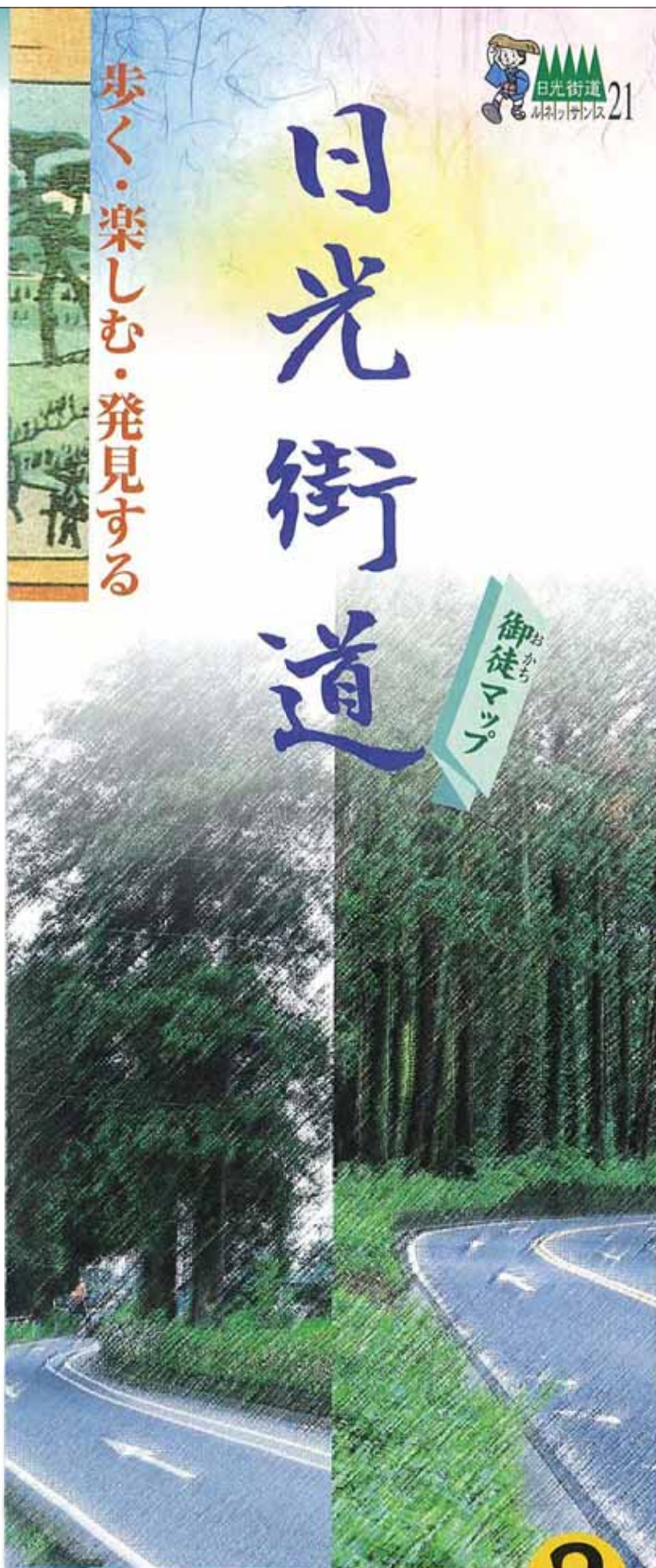
① 高谷林の一里塚



江戸時代の面影が残る一里塚です。東側の塚には大きな杉、西側の塚には桜とヒノキが生えています。江戸から29里目にあたります。



1:10,000
0 100 200 300 400 500m



大沢宿／徳次郎宿 Walk

2

日光街道400年の 「むかし」と「いま」を 同時に歩こう

徳川家康が日光

東照宮に改葬された元和3

(1617)年に街道・宿場がともに整備さ

れたという日光街道。この日光街道は宇都宮
までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥
州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した
道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着し
ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部
として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を

自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、
現在の姿もまた見つめ直して
みませんか。

宿場マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで
21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっ
ていました。このマップでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿
から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これら
の宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめ
る様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われて
いる行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介して
あります。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の「むかし」
と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

旧日光街道	名所・史跡	その他のポイント
一般国道	トイレ	案内看板等
主要地方道	公園	観光案内所
一般県道	駐車場	官公庁
有料道路	並木道	

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色
(道は赤の実線。ただし通行不能区画及び比定が不明な箇所は破線)で表しました。

① 大沢の一里塚



江戸から32里目の
ここの地名をとって
「一里塚」とも呼ばれる
西側の塚には木がな
く、塚に2本の杉が生え

森友並木太郎



「版本 日光道中絵図 大沢」
(栃木県立博物館蔵)

源頼朝にちなむ 大沢

大沢は、大谷川・赤堀川・田
状地の扇端部に位置してい
間(1190~99)に源頼朝が狩
荒地だったのを見て、4人の
高橋)に開拓居住させたのが
地名は、この頼朝のご恩沢に
のちにそれが大沢(おおたく
みになったと伝えられます。

大沢宿は、元和3(1617)年
た後、江戸から19番目の宿場
次郎宿へそれぞれ2里(約8k
保4(1833)年に飯盛女を置く
茶屋・旅籠の往来人引き止め
できると、宿場内は非常に賑わ

0 100 200 300 400 500m
1:10,000

の一里塚で、
「水無の一
ます。現在、
なく、東側の
ています。

② 大沢御殿跡

大沢御殿とは、寛永4（1627）年、
徳川3代将軍・家光の日光社参にあたり、
幕府が将軍休息所・装束衣帯所
として設けたものです。



③ 大沢の四本杉



おんたく む恩沢の地 宿

田川などがつくる今市扇
ます。この地は、建久年
りに訪れたとき、広大な
従者（宮下・大島・安西・
始まりといわれています。
ちなみ「恩沢」と称され、
）となり、さらに現在の読
に日光東照宮が造営さ
となりました。今市宿、徳
m）のところにあって、天
ことが許可され、翌年に
を目的とする取り決めが
ったといえます。



知って
なるほど!

「水無」の由来

今市宿から森友の杉並木を過ぎると、
旧水無村に入ります。「水無」の地名の由来に
は諸説があり、一つは、かつてこの辺りの水利
が悪く畑地ばかりであったという説。もう一つは、
名主清兵衛の宅地に大きな梨の木があり、水
分の多い甘い実をつけたので「水梨」と呼ばれ、
それが「水無」になったという説があります。

① 大沢の一里塚

② 大沢御殿跡

③ 大沢の四本杉

④ 大沢の古杉

⑥ 竜蔵

⑤ 八坂の枝喰い杉

今市市
大沢

日光宇都宮道路

④ 大沢の古杉

この数本の古い杉は、松平正綱が東照
宮に並木杉を植栽寄進する前から存在
したことを窺わせます。また、ここは
戊辰戦争の時、大沢の斎藤縫蔵と板橋
の由五郎が幕府軍の間諜を働いたとし
て処刑されたところでもあります。



⑥ 八坂の枝喰い杉



八坂神社の鳥居前、2
が癒着した二又杉で
から分岐した杉が、
他の幹の成長ととも
ので、あたかも別の
込んでいるような形を

4本の杉が四角形の各点から、ほとんど同じ大きさで立ち、均整のとれた箱型の樹相をしています。これは、互いに倒木を防ぐための植樹法によるものといわれています。

6 竜蔵寺(六尺藤)

寛文3(1663)年、徳川4代将軍・家綱の日光社参の時に大沢御殿に代わり装束衣帯所となりました。以後、吉宗(8代)、家治(10代)、家慶(12代)も利用しました。境内には、市指定天然記念物の六尺藤があります。



8 杉並木寄進碑

慶安元(1648)年、寄進碑はこのほか、例幣使街道小倉、会にあり、松平正綱がした由緒が刻まれています。ここは日光神領と宇界でもありました。



知って
なるほど!

御殿工場って?

大沢御殿跡の近くには「御殿工場入口」というバス停があります。この名は、江戸幕府が滅んだ明治元(1868)年、安西氏がこの地を請い求め家業の材木業を営んだことから呼ばれるようになったようです。また、この辺りから北へ延びる県道大桑・大沢線は、老中水野忠邦が通行する際に整備されたことから「御老中街道」としても知られています。



7 王子神社(大銀杏)

8 杉並木寄進碑

7 王子神社(大銀杏)



主神 皇城入彦命に以仁王と源頼朝をまつる神社です。境内には、推定樹齢約200年といわれる大銀杏があり、市指定の天然記念物になっています。



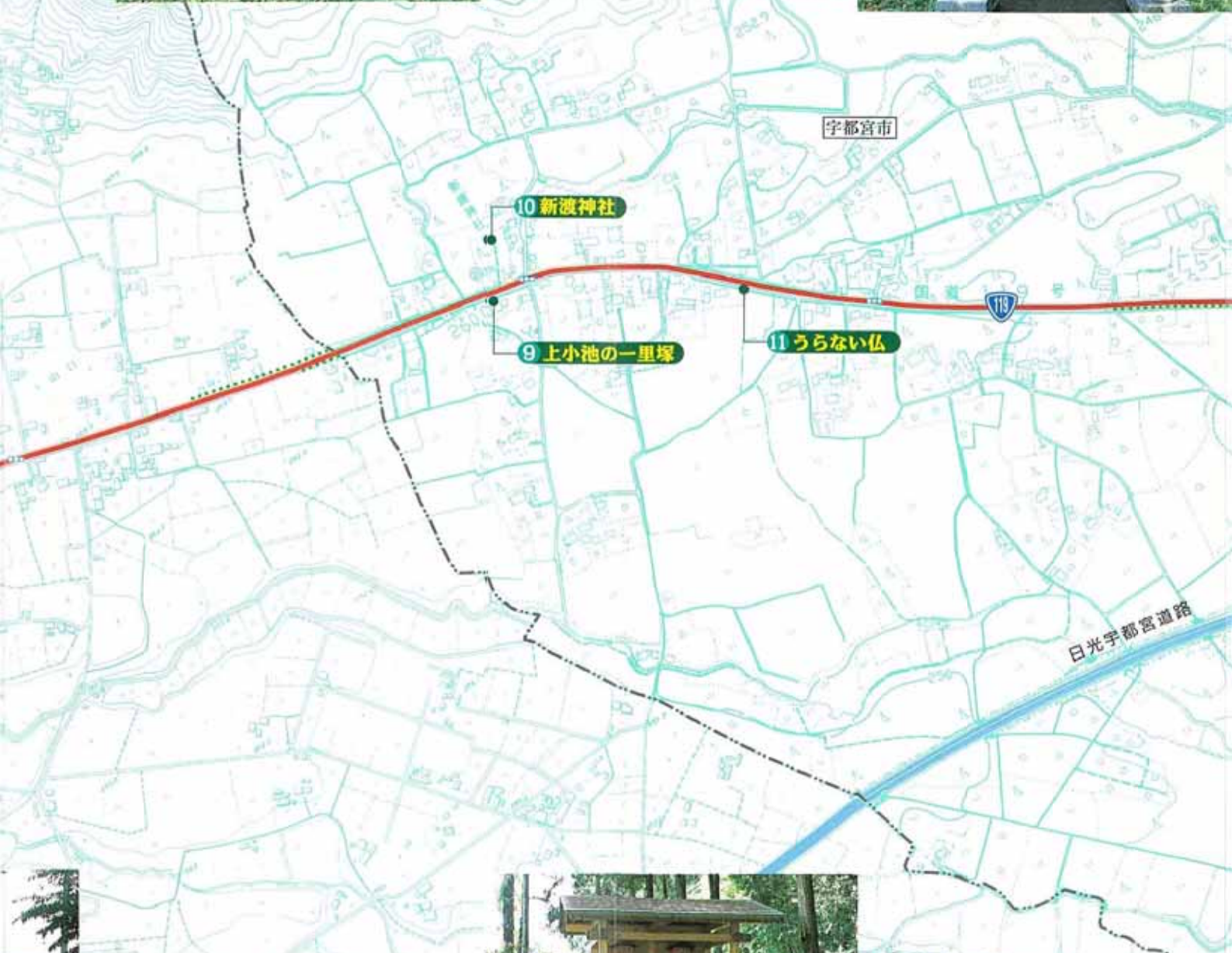
2本の杉の根が接触していたり、木の枝を食い

に建てられた
、日光神橋、
津西街道大桑
杉を植栽寄進
います。また、
都宮領との境



にわたり 10 新渡神社

この神社のご神体は石の不動像で、境内には、大杉・稲荷の2社があります。近くに一里塚があることから、江戸時代の旅人はこの境内でも疲れをいやしたのでしょう。



かみ こいけ 9 上小池の一里塚

江戸から31里目の一里塚です。西側には直径約3m、高さ約1.8mの塚がありますが、東側の塚は今は痕跡も認められません。江戸時代には、ここに松が植えられていたといわれています。



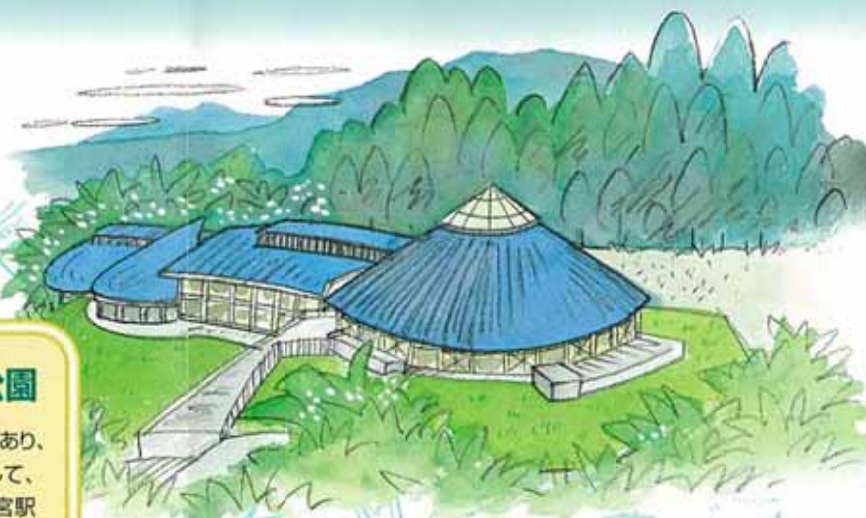
11 うらない仏

大谷石でできた石仏のため風化が激しく、はっきり分かりませんが、阿弥陀像と思われます。この石仏に願をかけ、3個のまんじゅう形の石のいずれかを持ち上げて、軽く感じれば願いが叶うといわれています。

行ってみよう！
見どころ
いろいろ

平成記念子どものもり公園

約22haある公園内には、吊り橋やトンネルがあり、ロッジやテントに宿泊したり野外炊飯をしたりして、家族でも、友達同士でも楽しめます。JR宇都宮駅より関東バス「塩野室行き」「塩野室・船生行き」路線バス約40分、「篠井学道」下車、徒歩約10分。



至
子
ど
も
の
も
り
公
園

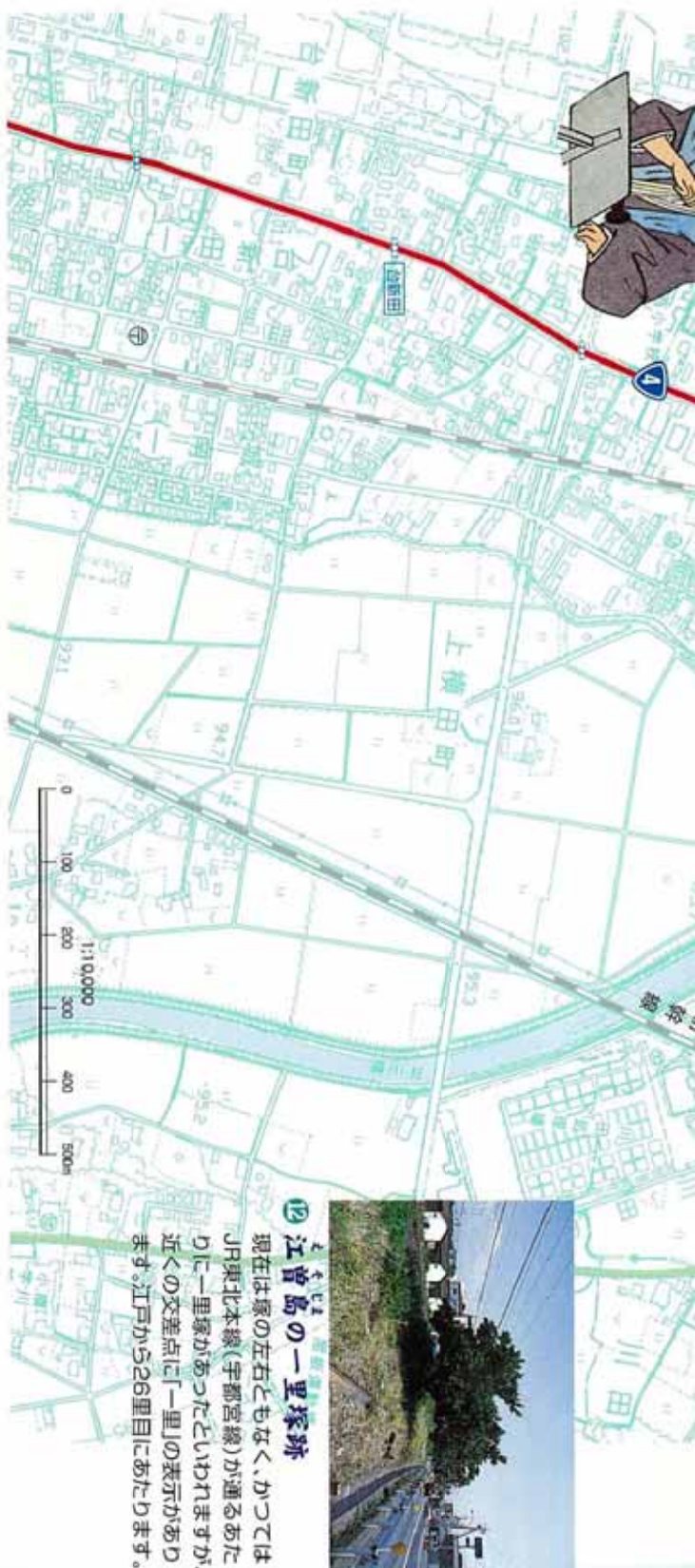
石那田八坂神社

行ってみよう！
見どころ
いろいろ

石那田八坂神社の天王祭

7月24日の天王祭の時に出される6台の屋台（不定期）は、いずれも幕末から明治初期につくられたもので、見事な彫刻が施されています。この「石那田八坂神社天王祭付祭屋台」は市指定民俗文化財になっています。





江曾島の一里塚跡

現在は塚の左右ともなく、かつてはJR東北本線(宇都宮線)が通るあたりに一里塚があったといわれますが、近くの交差点に「一里」の表示があります。江戸から26里目にあたります。

地域の皆さんといっしょに、まちづくりを進めます。

栃木県内の日光街道沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、歴史や文化を生かしたまちづくり、まちづくりを進めています。400年という時を超え、未来への夢をつなげる日光街道。ここ栃木県でも、地域の大切な文化を地域の皆さんといっしょに活力ある「まち」、魅力ある「まち」へ創造していきます。

■宇都宮宿までのウォーキングお疲れさまでした。
「マップWalk4」は宇都宮宿から石橋宿までです。ご利用ください。

栃木県の日光街道



日光街道ルネッサンス21推進委員会
栃木県商工会議所連合会、栃木県観光協会
日光東照宮、下野新聞社、NHK宇都宮放送局
日光市、今市市、宇都宮市、石橋町、上三川町
南河内町、国分寺町、小山市、野木町
国土交通省宇都宮国道事務所、栃木県

【お問い合わせ】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課
〒321-0931 宇都宮市平松町504 TEL.028-638-2185

栃木県土木部道路建設課

〒320-8501 宇都宮市堀田1-1-20 TEL.028-623-2409

宇都宮市建設部道路建設課

〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5 TEL.028-632-2222(代)



この寺の客仏である阿彌陀如来坐像は、世の中の吉凶災変が起こる前兆として汗をかくといい伝えられることから「汗かき阿彌陀」と呼ばれます。国の重要文化財です。

⑨ 台陽寺



慶長10(1605)年に建立されました。かつては、この付近に多くの寺院が配され、宇都宮城下入り口を固める防衛線の役割も果たしたといえます。



知って なるほど! 寛政の三奇人・蒲生君平

林子平、高山彦九郎とともに「寛政の三奇人」といわれる蒲生君平は明和5(1768)年に宇都宮で生まれ、学者・尊王家として知られています。文化5(1808)年に著した「山陽志」は、畿内を中心とした天皇陵について文獻と実地検証に基づいて考証した書です。古墳研究の画期をなす書として、その後の山陽復興運動にも影響を与えました。



JR日光線

宇都宮北本線(片瀬国線)

12 江曾島の一里塚跡

⑧ 英巖寺跡



英巖寺は宝永8(1711)年に戸田忠真が宇都宮城主となった際に、越後高田から移築した寺でした。戊辰戦争で焼失し廃寺となりましたが、寺跡には戸田氏の墓碑が建てられています。



⑩ 蒲生君平幼少旗の

明治天皇の命により、宇都宮藩知事の戸田忠友が明治2(1869)年に蒲生君平の遺功を追慕したものです。現在、市指定有形文化財になっています。

⑪ 不動堂



高さ約50cmの不動明王が納められ、この付近の地名の由来となりました。



④ 光琳寺



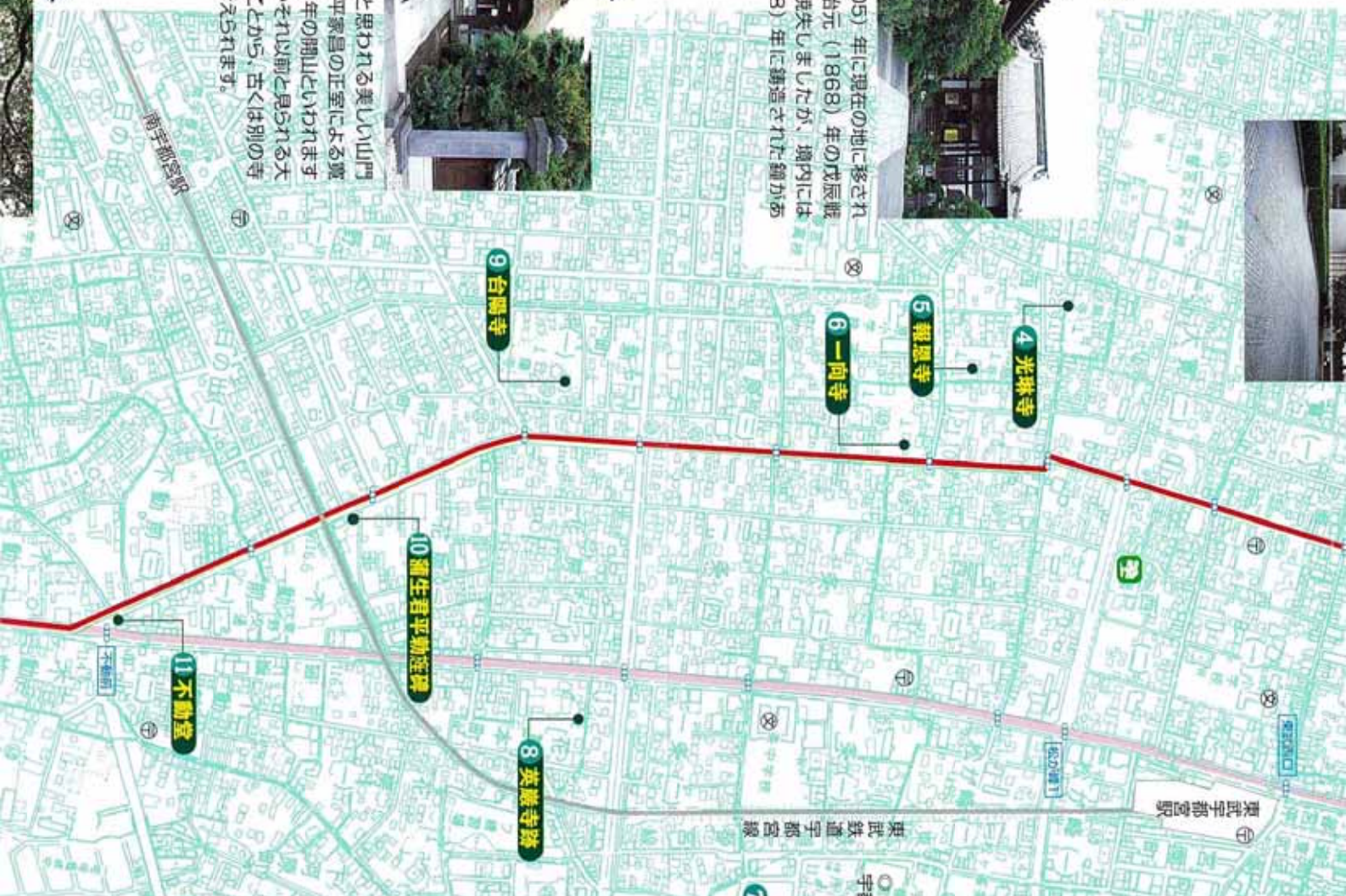
慶長10（1605）年に現在の地に移された寺です。明治元（1868）年の戊辰戦争時に諸堂が焼失しましたが、境内には貞享5（1688）年に建造された鐘があります。

⑤ 報恩寺



江戸時代初期と思われる美しい山門があります。奥平家昌の正室による寛永16（1639）年の開山といわれますが、鎌倉時代かそれ以前と見られる大五輪塔があることから、古くは別の寺があったとも考えられます。

⑥ 一向寺



③ 三荒山神社



⑦ 宇都宮城跡

関東七名城の一つといわれ「釣天井」の伝説でも有名な城です。城跡は戊辰戦争で焼失し本丸跡だけが残っていますが、御本丸公園として市民の憩いの場となっています。

⑦ 宇都宮城跡



本多正純と釣天井事件

歌舞伎や映画の題材にもなっている「釣天井事件」ですが、本当にあった話なのでしょうか？ この事件は、宇都宮城主・本多正純が日光社参から帰る将軍（家光）を、城内の部屋に仕掛けたからくり天井（釣天井）で暗殺しようとしたといわれるものです。もちろん、これは事実ではありません。元和8（1622）年、正純が宇都宮城を突然取り上げられ、出羽（秋田県）に流されてしまったことから生まれた創作なのです。



栃木県立美術館

栃木県立博物館

A photograph of a traditional Japanese shrine building, likely the main hall (Honden) of the Tama-no-Hime Shrine. The building features a dark wooden frame and a multi-tiered tiled roof. It is surrounded by lush greenery and a stone fence is visible in the foreground.

境内の地藏堂は享保年間（1716～36）の建立で市内最古の木造建築物の一つです。また、ここは蒲生君平が幼少のごころ学問を学んだところで「蒲生君平修学の寺陣」があります。

下野一ノ宮と呼ばれる神社で、宇都宮大明神とも称されました。宇都宮の歴史はこの神社とともに歩んでおり、市中心部の祭りの多くは三荒山神社と深い関係があるのです。

その遺構は今も市内の至る所に見ることできます。

また、宇都宮は栃木街道や鹿沼街道、茂木街道、水戸北街道、真岡街道など驛街道の始点にもなっており、昔も今も交通の要衝として、北関東の一大中心地になっています。

日光街道

歩く・楽しむ・発見する

御徒アツ

日光街道
21

1 桂林寺

応永3（1396）年の間山で、元和6（1620）年に現在の場所に移されました。境内には、蒲生君平、岡田寛西らの墓所があります。

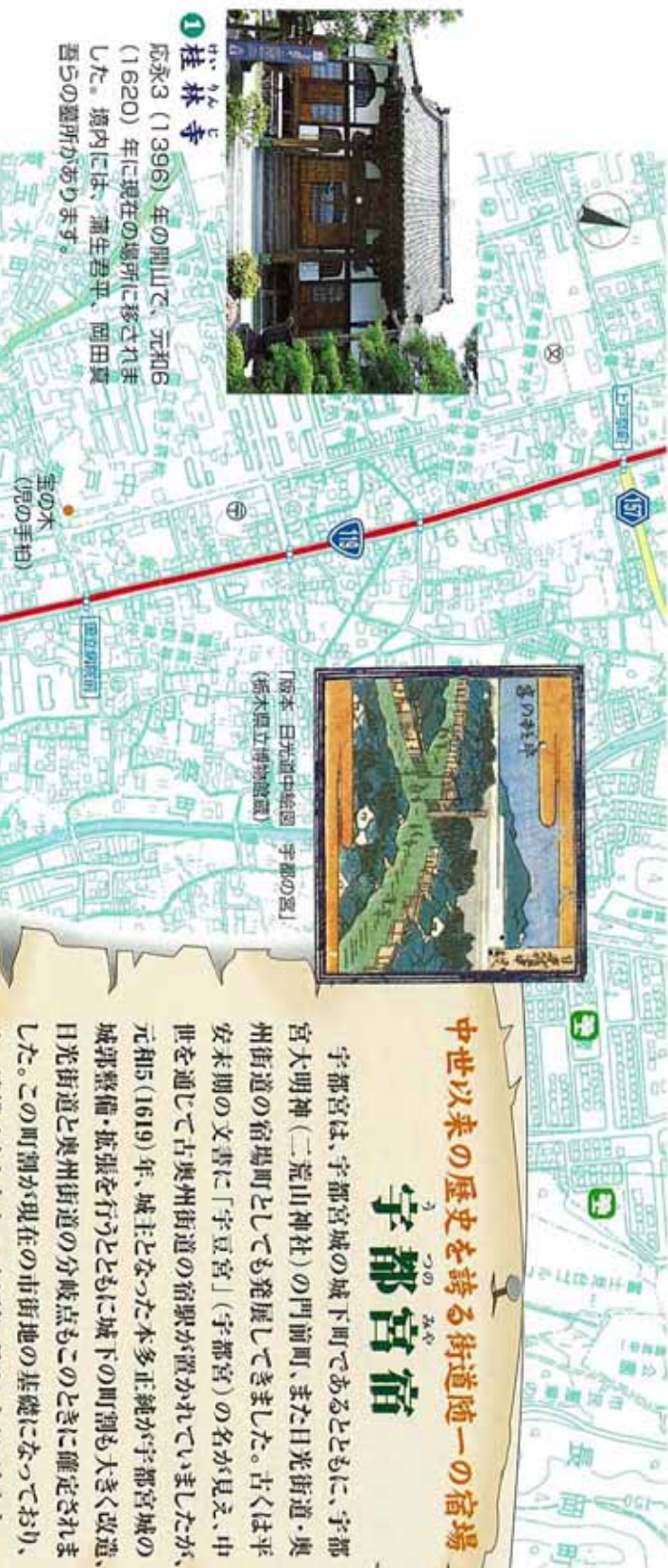


「南本 日光道中絵図 宇都の宮」
（栃木県立博物館蔵）

宇都宮宿

中世以来の歴史を誇る街道随一の宿場

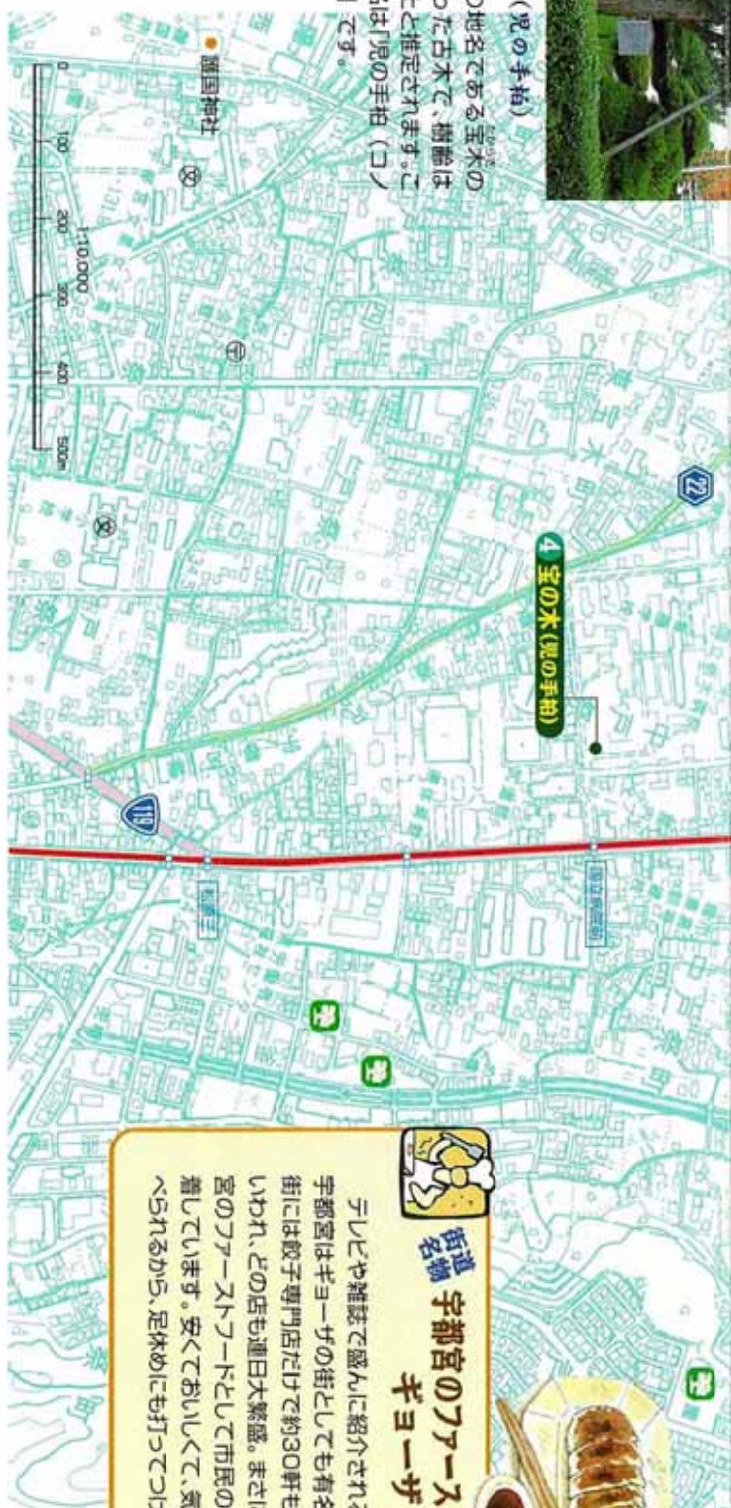
宇都宮は、宇都宮城の城下町であるとともに、宇都宮大明神（二荒山神社）の門前町、また日光街道・奥州街道の宿場町としても発展してきました。古くは平安末期の文書に「宇豆宮」（宇都宮）の名が見え、中世を通じて古奥州街道の宿駅が置かれていましたが、元和5（1619）年、城主となった本多正純が宇都宮城の城郭整備・拡張を行うとともに城下の町割も大きく改造、日光街道と奥州街道の分岐点もこのときに確定されました。この町割が現在の市街地の基礎になっており、





4 宝の木 (呪の手柏)

この地域の地名である宝木の由来となった古木で、樹齢は450年以上と推定されます。この木の和名は「呪の手柏（コノテガシヅク）」です。



4 宝の木 (呪の手柏)



街通 宇都宮のフアーストフードギョーザ

テレビや雑誌で盛んに紹介されるほど、宇都宮はギョーザの街としても有名です。街には餃子専門店だけで約30軒もあるといわれ、どの店も連日大繁盛。まさに、宇都宮のフアーストフードとして市民の間に定着しています。安くてもおいしくて、気軽に食べられるから、足休めにも打ってつけ！



【主な行事 宇都宮市 祭り】

初市 上河原通り 1月11日
男体おろしが賑しい季節に、賑やかな露店が並びます。シルエや豆太鼓、黄ぶななどの縁起物を買求める人たちが多く訪れます。

春渡祭 (冬渡祭) 二荒山神社 1月15日 (12月15日)
毎年1月と12月の15日に行われる神事です。春渡祭と書いて「おたひや」と呼びます。二荒山神社が遷座されたとき、儀式が夜中に行われたために「遅り夜」と称され、これがなまったものだと いわれます。ちなみに、12月15日に行われる「おたひや」は冬渡祭と書きます。

二荒山神社の神楽 二荒山神社 1月・5月・9月の28日
江戸中期から続いているといわれています。神社では宮比流太々神楽と称されます。

花市 二荒山神社 2月11日
神社参道の両側に多くの露店が並び、シルエ、豆太鼓、黄ぶななどの縁起物が売られます。

八坂神社の太々神楽 八坂神社 (今泉町) 2月最終日曜日、11月23日
八坂神社の太々神楽は、神官が江戸時代に神田明神に向向き、太々神楽の技能を伝承してきたものといわれています。

さくら祭り 市内各所 4月上旬
約700本の桜が咲き誇る八幡山公園をはじめ、多気山、新川など市内各所で行われる祭りです。

田舞祭 (稲米の田楽舞) 二荒山神社 1月15日、5月15日、12月15日

この祭りに奉納される田楽舞は、平安時代に始まるといわれる民俗芸能です。豊作祈願の農耕 儀礼として始まり、神社の祭礼行事になりました。

茅の輪くぐり (大祓式) 二荒山神社 6月30日
大祓式は毎年6月30日と12月31日に行われ、人々の罪や穢れを払い清める行事です。

天王祭 二荒山神社 7月15～20日

二荒山神社境内にある須賀神社の例祭です。市内を練り歩いた各町内の神輿が神社の階段を駆け上がるシーンは必見です。

ふるさと宮まつり 大通り 8月第1土・日曜日
宇都宮市街のメインストリート、大通りを中心に繰り広げられる北関東最大の祭りです。

獅子舞 市内各所 8月旧盆
新里町日枝神社の「宗丹獅子舞」、関根町観音堂の「関根の獅子舞」、飯山町安藤神社の「飯山の獅子舞」、上横倉町多喜神社の「上横倉の獅子舞」があります。

うつつのみや新能 二荒山神社 10月上旬
その昔、城主であった宇都宮氏の御前で奉納されたという能を見ることかできます。

菊水祭 二荒山神社 10月最終土・日曜日
二荒山神社の本祭です。祭神を乗せた風置(ふうきん)が市内を巡るほか、勇壮な流鏑馬(やぶめ)も行われます。



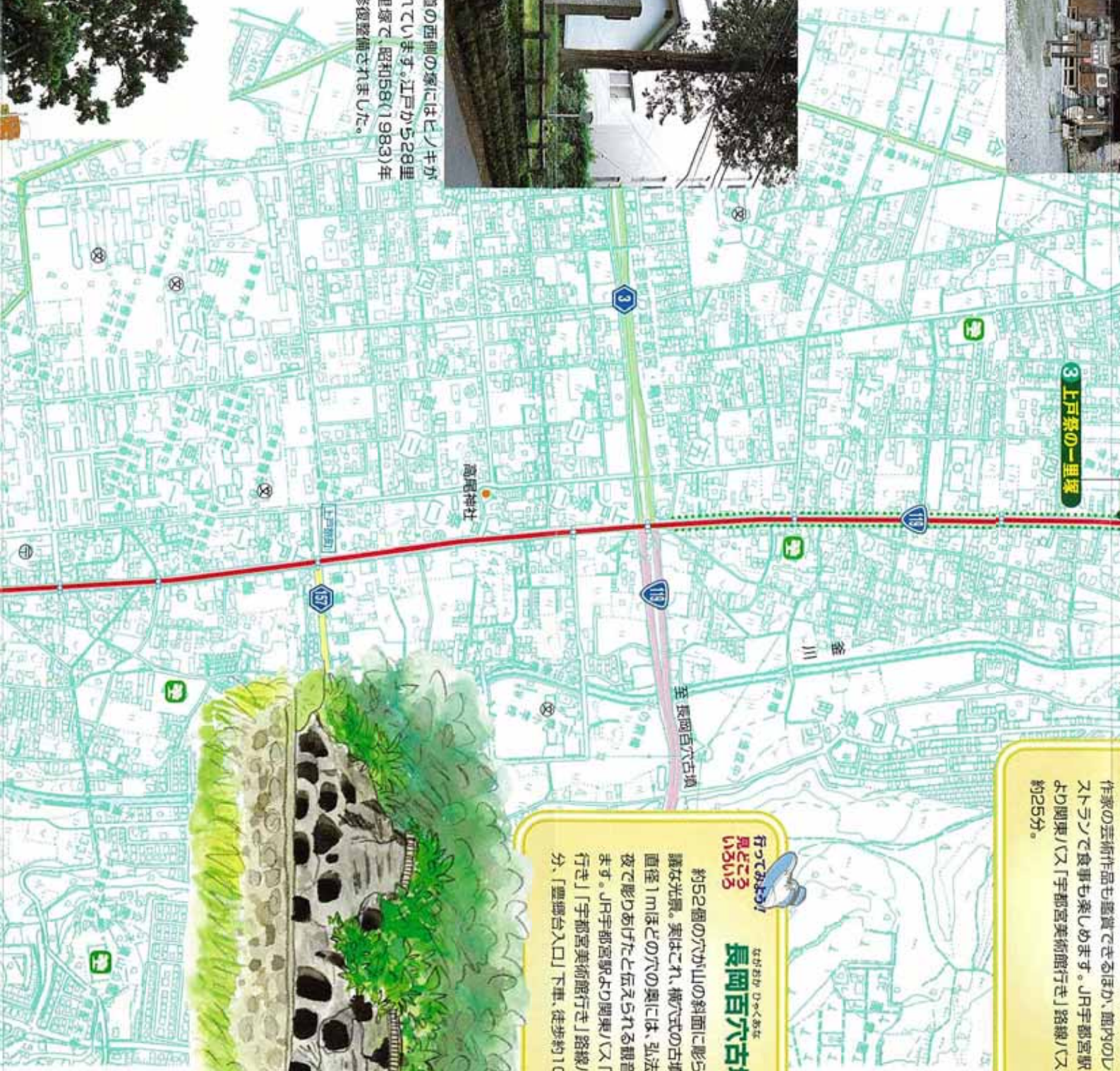
3 上戸祭の一里塚

作家の芸術作品も鑑賞できるほか、館内のレストランで食事を楽しめます。JR宇都宮駅より関東バス「宇都宮美術館行き」路線バス、約25分。

3 上戸祭の一里塚



日光街道の西側の塚にはヒノキが植えられています。江戸から28里目の一里塚で、昭和58(1983)年に一部修復整備されました。



行ってみたい
景どころ
いろいろ

ながおか ひろくおな 長岡百穴古墳

約52個の穴が山の斜面に彫られた不思議な光景。実はこれ、横穴式の古墳なのです。直径1mほどの穴の奥には、弘法大師が一夜で彫りあげたと伝えられる観音像があります。JR宇都宮駅より関東バス「宇都宮美術館行き」路線バス約15分、「豊郷台入口」下車、徒歩約10分。





文禄年間(1592~96)、野沢の石塚に玉塔院を建立したのに始まり、寛文11(1671)年にこの地に移されました。徳川将軍の日光社参の時に休憩所ともなり、寺の前には立場があったといわれています。



1 光明寺

2 静校

いる女性です。文治元(1185)年、兄頼朝によって京を追われた義経を助けましたが、翌年、吉野山で義経と別れたあと捕えられ、鎌倉へ送られました。その時に、産まれた子供を殺されてしまったということです。この悲しい恋の物語が各地の伝説を生み、謡曲や歌舞伎の題材にも取り上げられています。



知って
なるほど!

大谷石ってどんな石?

大谷石とは、約2000万年前の火山活動でできた緑色凝灰岩。軽石を含み、全体に緑色のかすり模様が入っているのが特徴です。石質は柔らかく加工しやすいため、建物や石垣など建築資材として利用されてきました。その歴史は古く、古墳時代後期の横穴式石室や、奈良時代の下野国分寺・国分尼寺建立にも使われ、近世では本多正純の宇都宮城改築の際にも大量の大谷石が使用されているのです。現在でも、大谷石を使った建物があちこちにあります。

また、大谷石が採れる大谷町は「陸の松島」とも賞賛され、宇都宮市街の北西約7kmに位置します。そこには大谷資料館をはじめ、日本最古の磨崖仏といわれる大谷観音(大谷寺)などがあり、必見の観光スポットがいっぱいあります。JR宇都宮駅より関東バス「大谷行き」路線バス、約30分。



② 静校(御前校)

一枚に八重と一重の桜が咲きます。名の由来には、奥州に落ちのびた源義経を追う静御前がさした桜の枝が繁り大木になったという伝説のほか、通常の桜より遅く咲くために静桜と名付けられたという説もあります。



宇都宮美術館

行ってみたい
見どころ
いろいろ

長岡百穴古墳の近く、緑豊かな「うつのみや文化の森」の中にある美術館。ルネ・サングリュットの「大家族」をはじめ、宇都宮ゆかりの



宇都宮1C



うんちく話

「立場」とは？

立場とは、宿場と宿場の間にあり、休憩のための茶屋などが設けられたところをいいます。野沢の立場は光明寺の前にあったといわれ、庄屋を務めた中山家には、正徳5(1715)年に諸侯が小休止したときに支払った宿泊料の資料が残されています。



知ってなるほど！宇都宮の地名の由来

宇都宮とは二荒山神社の別号で、それが地名に転化したといわれます。なぜ、二荒山神社の別号が宇都宮なのかについては、服従しない者を征討する宮「うつ（討つ）の宮」、日光から移まつた「うつしの宮」など諸説があるほか、下野国「一ノ宮」の転化であるといわれています。



源義経と静御前の悲恋

静御前は平安時代末期の白拍子（しらびょうし）、歌や舞を演じる女性）で、源義経の側室といわれて



1 光明寺

宇都宮市

日光街道400年の 「むかし」と「いま」を 同時に歩こう

徳川家康が日光

東照宮に改葬された元和3

(1617)年に街道・宿場とともに整備さ

れたという日光街道。この日光街道は宇都宮

までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥

州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した

道で、宇都宮からは1つの宿場を経て日光に到着し

ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部

として通った日光街道のうち、栃木の宿場を

自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、

現在の姿もまた見つめ直して

みませんか。

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1地図を使用し、近世の日光街道を赤色
(道は赤の実線、ただし通行不能区間及び比定が不明な箇所は破線)で表しました。

御徒マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっていました。このマップでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これらの宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめる様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介してあります。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の「むかし」と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

旧日光街道	名所・史跡	その他のポイント
一般国道	トイレ	案内看板等
主要地方道	公園	観光案内所
一般県道	駐車場	官公庁
有料道路	並木道	

行ってみよう！
見どころ
いろいろ

ろまんちっく村

(宇都宮市農林公園)

花いっぱい、緑いっぱい。大地の恵みをめいっぱい満喫できます。ここには、地ビールレストランや温泉、フラフロードムなどがあるほか、自然の雑木林を生かした森ではバードウォッチングや森林浴も楽しめます。JR宇都宮駅より関東バス「ろまんちっく村行き」路線バス約40分。

ろまんちっく村
(宇都宮市農林公園)

高谷林の一里塚

旧日光街道跡



本来の日光街道の跡が、まっすぐ延びる農道として残っています。この辺りは晴れた日には、北西方向に日光連山を遠望でき、江戸時代の風景を連想させてくれます。



知るほど！ 石橋の神興

お祭りに欠かせないのが神興ですが、ここ石橋町の神興は全国的にも有名。栃木県指定無形文化財保持者でもある小川政次氏の手による御神興・彫刻山車などが、県内はもとより全国にも出荷されているのです。

地域の皆さんとついに、みちづくり、まちづくりを進めます。

栃木県内の日光街道沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、歴史や文化を生かしたみちづくり、まちづくりを進めています。400年という時を超え、未来への夢をつなげる日光街道。ここ栃木県でも、地域の大切な文化を地域の皆さんとついに活きたる「みち」、魅力ある「まち」へ創造していきます。

調査宮宿から石橋宿までのウォーキングお疲れさまでした。「マップWalk5」は小金井宿から山宿までです。ご利用ください。

栃木県の日光街道



日光街道ルネッサンス21推進委員会

栃木県商工会議所連合会、栃木県観光協会
日光東照宮、下野新聞社、NHK宇都宮放送局
日光市、今市市、宇都宮市、石橋町、上三川町
南河内町、国分寺町、小山市、野木町
国土交通省宇都宮国道事務所、栃木県

【お問い合わせ】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課
〒321-0931 宇都宮市平松町504 TEL.028-638-2185

栃木県土木部道路建設課

〒320-8501 宇都宮市堀田1-1-20 TEL.028-623-2409

宇都宮市建設部道路建設課

〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5 TEL.028-632-2222(代)

石橋町建設課

〒329-0594 下都賀郡石橋町大字石橋552-4 TEL.0285-52-1111(代)

上三川町建設課

〒329-0696 河内郡上三川町しらさぎ1-1 TEL.0285-56-9111(代)

国分寺町建設課

〒329-0492 下都賀郡国分寺町大字小金井1127 TEL.0285-40-5561



9 夕顔橋の石仏群

日光街道と国道352号との交差点に架かる夕顔橋の南西側にある10体の石仏です。本来の日光街道は、このあたりから小金井方面に向かって右にそれ、現在の国道4号の西側を通っていたと思われます。



10 下石橋の一里塚(上三川町)

江戸から23里目にあたります。この一里塚は失われてしまったと思われていました。最近の調査で国道4号西側の雑木林の中に西側の塚が残っていることが確認されました。

10 下石橋の一里塚

11 旧日光街道跡

三嶋神社

四ヶ寺町

宇都宮頼綱の四男であり多功氏の祖となった多功宗綱が建てた城でした。宝治2(1248)年の築城から慶長2(1597)年に廃城となるまで、東方の上三川城とともに宇都宮城南方の防衛の役割を果たしました。



7 宝光院

上三川七福神の一つ、毘沙門がまつられています。恵比寿は、面壳繁盛や災厄消除などにご利益がある神様です。



8 見性寺

多功宗綱が創建した多功家の菩提寺です。多功城主累代の墓があるほか、上三川七福神の毘沙門天がまつられています。毘沙門天は無量の知恵と財宝を始め諸願成就などにご利益があるといわれます。



江戸時代に徳川将軍の日光社参のとき、休息所となった寺です。3代将軍家光の社参の際に境内に御殿所が立てられ、後に下賜されました。寺紋に葵を用い、土塀が城郭様式なのは、これに由来します。

④ 愛宕神社



創建は天平宝字3(759)年という古社で、境内には天照大神・八坂大神・スサノオノミコト・熊野大神の4社がまつられています。この神社の境内は愛宕山古墳といわれています。

② 間聖寺

③ 多功天満宮

③ 多功天満宮
この神社の境内付近から奈良時代のものと思われる瓦や土器が出ました。調査によって、河内郡の役所の施設のものであると推定されています。

④ 愛宕神社

⑤ 西念寺

⑥ 多功城址

⑦ 宝光院

⑧ 見性寺

グリンの里・石橋

行ってみよう!
見どころ
いろいろ

グリン兄弟の出身地・ドイツのシュタインブリュッケンと姉妹都市を結んでいる石橋町では、グリンの里づくりが進められています。その一つ、赤い風車が目印の姿川アメンテイパークは、グリン童話の世界があらわにちりばめられた公園です。四季折々に咲く花も楽しみ、風車の展望回廊からは日光連山を一望することもできます。JR石橋駅より西へ約2km。

⑨ 夕顔橋の石仏群

⑤ 西念寺

上三川七福神の一つ、男老人がまつられています。寿老人は、人々に長寿を授けるといわれる福の神です。



⑨ 多功城址



ツリノの里・城とこもの花まつり	5月1～5日
アリス祭り	5月上旬～下旬
あやめ祭り	6月上旬
かんびのウオーク	7月下旬
茅の輪くぐり	7月下旬
納涼踊り花火大会	8月中旬
淀川アメニティパークフェスティバル	9月第1日曜日
三休地域大祭日	9月23日
かんびのウオーク大会	12月中旬

このあたりに八坂神社や多功城跡があり、甲斐にこの地で威をふるった多功氏興亡の歴史を今に伝えています。

【主な行事 上三川町 祭り】

天 主 祭 八坂神社・他町内各所 7月中旬
八坂神社の八坂祭に合わせ行われる大神輿の夏祭りです。日が暮れると上三川道りは歩行者天国となり、祭りは最高潮を迎え、お囃子とかげ声の夜に響きわたります。

愛宕神社 奉納相撲 上郷愛宕神社 8月第4日曜日
古墳の頂上にある愛宕神社境内では、200年の歴史をもち奉納相撲が開催されます。現在は子供相撲として奉納され、巨力士たちの名勝負が観られつづけています。

いきいきかみのかわ祭り 上三川町内 11月中旬
この祭りの一つに椎見行列があります。この地方では、古くから椎見に姿をかりて神が降臨すると考えられ、子どもたちのすこやかな成長を祈念し、就学前の幼児たちのかわい行列が毎年行われています。



**行ってみたい！
見どころ
いろいろ**

見山城跡
多功氏の相である多功宗朝の三男、見山朝定が鎌倉時代後期に築城したと伝えられています。本丸の土塁や堀は、ほぼ往時のまま残されています。古山小学校の北西、約600m。



① 五社神社
多功城の守り神として5体のこの神体をまつたことから、「五社」の名が付いたといわれています。この神社の周辺には、大山古墳群が見られます。

② 開雲寺



歩く・楽しむ・発見する

日光街道

御徒マヅル



「原本 日光道中絵図 石橋」
〔栃木県立博物館蔵〕



石橋宿

多功氏興亡の歴史をとどめる

石橋の地名の起源ははっきりしませんが、一説に、池上明神（いまはありません）前の水が流れるところには当時ではめずらしい石の橋があったことからつけられたと伝えられています。

石橋宿には江戸時代、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠30軒がありました（天保14年、1843年）。本陣、脇本陣を務めた伊澤家の祖先は、多功宗朝（宇都宮国経の一族）に仕えたという旧家で、多功氏が没落した後、石橋の地に帰農したといわれます。

主な行事

元旦神輿渡御	宝珠堂	1月1日
どんど焼き	町内各所	1月中旬
節分祭	町内各神社	2月上旬
春の大祭	橋本・下古山神社	4月上旬





⑤ 星宮神社

別堂新田の鎮守として、古くから信仰を集めていた神社ですが、創建年代などは定かではありません。本殿の裏に石の祠が点在し、参道右手にも石の祠が並んでいます。



分岐点だった追分

宇都宮方面から北関東自動車道の高架をくぐってすぐのところに、「追分」と書いて地元で「わかざり」と呼ばれるところがあります。ここを東に入る道が、かつての結城道の跡です。現在、南に向かう辺りの道が失われていますが、ここから多功天満宮、下野薬師寺跡、竜興寺を経て結城へと道が続いていたのです。



⑥ 別堂地蔵

この辺りの地名にもなつたといわれるのが、この地蔵です。別堂の名は、天保6(康暦2、1380)年の「刈山」宇都宮合戦の際、戦死した兵の首を集めて埋め、そこにお堂を建て地蔵を安置したことから付けられました。



街通 かんぴょうの正体は?

のり巻きの具として馴染みのかんぴょうですが、その正体は、夏の夕暮れに白い花を咲かせる夕顔の実なのです。ウリ科の植物で古くから栽培されていますが、この夕顔の実肉を細長くむいて乾燥させるとかんぴょうになります。食物繊維や鉄分、リン、カルシウムなどが豊富で、健康食品としても使われています。



栃木県はかんぴょうの生産日本一。その実をくりぬいて作る「ふくべ細工」は、宇都宮の代表的なお土産です。ほかにも、無病息災を願う郷土玩具「黄ぶな」や「大谷石細工」など、その可愛らしい表情には、思わず心もなごんでしまいます。

茂原(古くは毛原、茂原とも書いた)は中世、たびたび合戦場となったところです。南北朝のころ、天授6(建暦2、1380)年、茂原の地で下野の両雄といわれる宇都宮基綱と小山義政が壮絶な戦いをしました。「小山・宇都宮合戦」とも「義原合戦」ともいわれる戦いです。結局、義政の謀略によって基綱ら一族300余人はことごとく討ち死にしていまいしました。この合戦は本来、宇都宮氏と小山氏の私闘でしたが、のちに鎌倉府に対する小山氏の反乱にも発展したといわれます。



4 観音道の入り口

観音道は「茂原正観音道」と書かれたこの地所から始まり、多くの参詣者が通った道でした。日光街道から茂原観音までの観音道を行くと、分岐点に置かれた石仏を見ることができます。

4 観音道の入り口

分岐点の石仏



5 茂原観音

お堂に安置されている観音は、地仏となっており、公開は不定期。ここに至ったのは数多くの参詣者、江戸時代から現代に至るまで多くの参詣者と深い信仰があったことを窺わせています。

5 茂原観音





1 雀宮神社

2 仮本陣跡

3 雀宮本陣跡



3 雀宮本陣跡

仮本陣の戸谷家の近くに本陣・小倉家がありました。その敷地は間口15間(約27m)、奥行き15間あり、雑坪は115坪余(約380m²)あったといわれます。現在、跡地には萱柱が建てられています。

歴史の小道

雀宮神社の伝説

宿場の名ともなった雀宮神社ですが、その由来には多くの伝説が残っています。社伝では、長徳元(995)年、陸奥守に任ぜられた藤原実方が赴任の途中でここで休息し陸奥に向かいました。妻の娘女も、その実方を追いますが、この地に来たところで病死してしまいます。その遺言で持っていた宝珠を埋め、産土神としてまつたのが神社の始まりです。その後、実方も赴任地の陸奥で死にますが、その霊魂が雀となりこの地に飛来したので、娘女と実方の2人を合祀し雀宮神社と称したということです。

ほかにも、雀が村人を救ったという伝説や、下野薬師寺に流された道鏡が納涼のためつくった事を「すゞみの宮」としたのが転化したという説など、多くの話が伝わっています。



2 仮本陣跡

雀宮駅入口交差点にある戸谷家は、江戸時代、仮本陣でした。その門境えと黒い櫓門に、往時の面影が残っています。



街通名物 めくもりが伝わる

うから約5500年前の縄文時代前期の大集落跡です。現在は「うつのみや遺跡の広場」として復元整備されていて、国指定の文化財になっています。また、この広場はニッコウキスゲの群生地としても有名です。JF宇都宮駅より関東バス「運転免許センター経由榑木行き」路線バス約30分、「聖山公園入口」下車。



宮村となりました。
 寛宮宿は、元和年間(1615～24)に日光街道が開かれたときに新しくつくられた宿場だといわれています。
 慶安元(1648)年には、本陣と脇本陣が各1軒、旅籠が38軒ありました。本陣職を務めていた小倉家は、もと宇都宮氏の家臣として2万石を領したといわれる旧家で、慶長2(1597)年に宇都宮氏が没落してからには同地に土着し、代々名主を務めたといえます。
 明治中頃までは街道沿いに芝居小屋などが立ち並び、賑やかな町だったようですが、今はその面影はありません。

行ってみたいところ
 見どころ
 いろいろ

とちの木ファミリーランド

栃木県総合運動公園内にあり、入園無料、各種の乗り物も格安です。近くには塚山古墳群もあり、家族で一日中楽しめます。東武宇都宮線「西川田」駅下車、徒歩10分。



1 宇都宮神社

古くは菟宮明神といわれ、多くの言い伝えが残っている神社です。藤原実方とその妻・綾女がまつられ、徳川将軍の日光社参ではこの神社に参詣するの例になつていと伝えられます。

日光街道400年の 「むかし」と「いま」を 同時に歩こう

徳川家康が日光

東照宮に改葬された元和3

(1617)年に街道・宿場がともに整備さ

れたという日光街道。この日光街道は宇都宮

までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥

州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した

道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着し

ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部

として通った日光街道のうち、栃木の宿場を

自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、

現在の姿もまた見つめ直して

みませんか。

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色
(通は赤の東線、ただし通行不能区画及び比定が不明な箇所は虚線)で表しました。

御徒ワツパについて

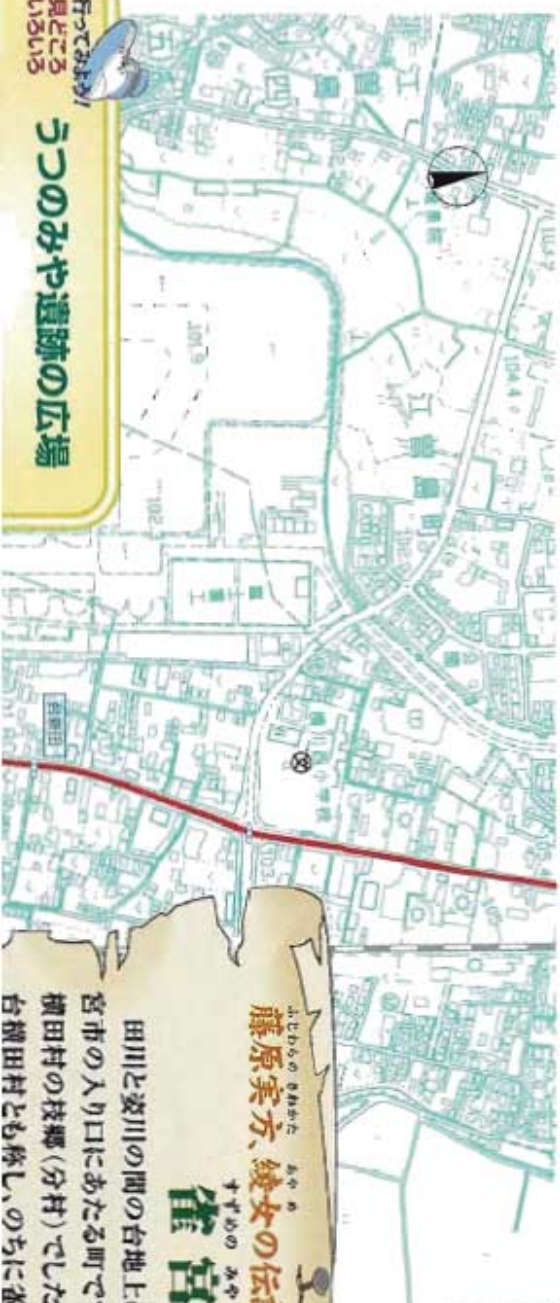
日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで
21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なり
ていました。このワツパでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿
から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて展開します。これら
の宿場の周辺には旅人の宿として発展した当時の名残りをとどめ
る様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われて
いる行事もあります。さらに途中の自然や見どころも広く紹介して
あります。このワツパを活用して、歩きながら、日光街道の「むかし」
と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

■ 日光街道	● 名所・史跡	● その他のポイント
— 一般国道	🚗 トイレ	🏠 案内看板等
— 主要地方道	🚗 公園	🏠 観光案内所
— 一般県道	P 駐車場	🏠 官公庁
— 有料道路	 並木道	

行ってみよう！
見どころ
いろいろ

うつつのみや遺跡の広場



上はのり 下はのり
藤原実方、綾女の伝説が語り継がれる

すずめの みや
雀宮宿

田川と姿川の間の台地上に位置する雀宮は、宇都
宮市の入り口に当たる町です。江戸時代はじめ、下
横田村の枝郷(分村)でしたが、土地が高いためから
台横田村とも称し、のちに雀宮神社の名を取って雀



「雀宮 日光道中図」(寛文10年)
(栃木県立博物館蔵)

本町



天授5(明治元、1379)年、小山藩政が
國家安泰のため山城國家名山より勧誘
したと伝えられています。境内には松尾
芭蕉門下の廻本(宝井)真角の句碑や市
指定文化財のケヤキがあります。

須賀神社



代々小山氏の崇敬が厚く、小山66郷の総鎮守
とされてきました。以前は小山城内にありまし
たが、本多正純の小山城改修の際に境内地に移
転されました。国指定重要美術品の建築模型など、
多数の文化財が保存されています。



宝龜3(772)年、弓削道鏡による開山
とされています。かつては御殿付近に
ありましたが、本多正純の小山城改修
により現在地に移転されました。享保
13(1728)年、徳川8代將軍吉宗の
日光社参の際には、この寺で休息しま
した。市指定文化財で市内唯一の江戸
時代の梵鐘が保存されています。

主な行事 小山市 祭り		
安房神社太々神楽	安房神社	元旦、4月第2日曜日
花輪かつぎ	諏訪寺〜御形神社	1月第4土曜日
猿塚初午祭	猿塚稲荷神社	3月第2日曜日
白鳥古式祭礼	白鳥八幡宮	旧暦1月11日
血方神社神楽	田間血方神社	4月第2土・日曜日
蛇祭り	間々田八幡宮	5月5日
祇園祭	須賀神社	7月20日
高杉神社神楽	高杉神社	10月9日

地域の皆さんといっしょに、 まちづくりを進めます。

栃木県内の日光街道沿線自治体では、街道の歴
史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、歴史や文
化を生かしたまちづくり、まちづくりを進めています。
400年という時を超え、未来への夢をつなげる日
光街道。ここ栃木県でも、地域の大切な文化を地域
の皆さんといっしょに活力ある「まち」、魅力ある「ま
ち」へ創造していきます。

■小金井宿から日光まで約100kmお連れさまでした。
「マツモトキ6」は間々田宿から野木宿までです。ご利用ください。

栃木県の日光街道



日光街道ルネッサンス21推進委員会
栃木県道工会議連合会、栃木県観光協会
日光東照宮、下野新聞社、NHK宇都宮放送局
日光市、今市市、宇都宮市、石橋町、上三川町
南河内町、国分寺町、小山市、野木町
国土交通省宇都宮国道事務所、栃木県

【お問い合わせ】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課
〒321-0931 宇都宮市平松町504 TEL.028-638-2185

栃木県土木部道路建設課
〒320-8501 宇都宮市岡田1-1-20 TEL.028-623-2409

南河内町建設課

〒328-0493 南河内町南河内町大字田中681-1 TEL.0285-48-2111(代)

国分寺町建設課

〒329-0492 下都賀郡国分寺町大字小金井1127 TEL.0285-40-5561

小山市建設部都市計画課

〒323-8686 小山市中央町1-1-1 TEL.0285-22-9204

を果たし、戦国時代末期には豊北家や稲城氏などの支配を受けました。江戸時代には奥川家康の重臣、本多正純が3万3000石(後、約7万石)で城主となっていました。正純は入封と同時に寺社の移転などを行い、最終的な城の大改修をしています。現在、その一部が城山公園として市民の憩いの場となっています。国指定史跡です。

12 伝小山評定跡・小山御殿



慶長5(1600)年、関ヶ原の戦いを前にして徳川家康が石田三成らを討つ決定を下したところとされています。将軍の日光社参の休泊施設となった小山御殿は、小山評定の舌例にならい設けられたといわれ、その中心部分は市役所から国道4号、県道小山栃木線一帯にありました。

●落神社 (縣城跡)

15 佐野・栃木道の庚申塔

常光寺の参道入り口から反対に小山第一小学校へ続く道がかつての佐野・栃木道です。この庚申塔は寛政12(1800)年に建立されたもので、道標を兼ねており「左佐野道 右栃木道」と記されています。



大工社・山内神社は、全山境内にめぐって呼ばれていました。

13 常光寺



この寺には、明治22(1889)年からしばらくの間、小山町役場が置かれていました。市指定文化財の青銅製阿彌陀如来像の台座には、戊辰戦争時に大黒圭介軍の駕れ陣が当たったと伝えられる痕があります。

14 小山宿脇本陣跡



歴戦風の風格ある玄関があります。ここは明治8(1875)年の明治天皇の奥州巡幸のときに行在所となっており、入り口に「明治天皇行在所跡」と書かれた石碑が建てられています。

18 持宝寺



16 愛宕神社(宮)





6 天翁院

小山氏初代の小山政光が北山(現在の中久喜)に龍山万年寺として創建したのが始まりと伝えられます。現在の寺は南側にあったものを、本多正純の城改修により現在地に移転したと考えられます。境内には小山氏の墓などがあり、風致に富んだ寺院です。



8 宝性院

創建年代は享永年間(1704~11)と伝えられます。かつては日光街道沿いにありました。山門に向かって左側に、文政3(1820)年の俣梨御羅(くりから)不動尊があり、市内之女河岸の石工の作品として貴重なものです。

7 興法寺



小山城主だった本多正純から9石、3代将軍徳川家光からも同じように寺額を与えられた寺です。正純の城改修のさい現在地に移転されました。境内にある地藏尊の左脇には戊辰戦争時の弾痕といわれるくぼみがあり、他にも多数の文化財が残されています。



10 光照寺

境内に日数を限って願い事をする日限地蔵があります。他にも、戊辰戦争時に食軍として参加した笠間藩士の墓や豊臣秀吉の家臣といわれた尾藤左衛門尉の墓石などがあります。



11 元須賀神社

宮本町にある須賀神社の元の位置との説があります。江戸時代には牛頭王様・元祖神社、本誓願社などと呼ばれていました。



9 小山城(祇園城)跡



南北朝末期、小山義政の乱の際には歸城とともに、その存在が確認できます。中世小山氏の居城として重要な役割

の
違
分



王生通りとの分岐点です。天明5(1785)年の道標を兼ねた供養塔などがあります。ここには茶屋や立場がありました。徳川の日光社参の際には習儀の場所ともなり、交通の要衝でした。

王生通り一里塚

③ 日枝神社



江戸時代には山王といわれました。参道には市指定文化財のケヤキがあり、神社を中心とした付近一帯は中世の川山域(紙園域)の北の守りとして支城の役割も果たしていました。社殿裏の土塁の上には、明治45(1912)年まで堀分にあった大きな男体山碑(道標)がありました。

④ 天翁院茶跡の地蔵尊



かつて喜沢の堀分にあつたといわれる享保3(1718)年の地蔵尊(道標)です。側面には「石へ興州海道左へ日光街道」とあり、正徳6(1716)年に「海道」の使用を禁止した幕府の触れが確認されています。ことがわかる貴重なものです。

1 喜沢の一里塚

「尺東北新経緯」

2 喜沢の堀分

3 日枝神社

4 天翁院茶跡の地蔵尊

と書えると、「加波山です」と書えたとところ「船園に印がある常陸の国の筑波・加波山はあれなり、船園の通りなり」と感心したといわれています。



「原本 日光道中船園 小山」(栃木県立博物館蔵)

徳川家の運命を決めた「小山評定」の地

小山宿

小山は平安末期、藤原秀郷の後裔、政光が小山氏の祖となつて以来、中世を通じて小山氏の本拠地でした。小山氏は下野最大の武士団ともいわれるように、その栄華の跡は市内の至る所で見ることが出来ます。また、小山は徳川家康が会津の上杉討伐から一転、関ヶ原の戦いへと向かう決定を下した「小山評定」の地としても有名です。

近世になり、慶長13(1608)年頃から元和5(1619)年までは小山藩主・本多正統によって支払いされ、城の大改修や城下町の整備が行われました。この時、小山市街の基礎が造られました。日光街道の宿場町も形成され、佐野・栃木道や結城道の分岐点としても、大いに栄えました。宿内の長さは南北に12町13間(約1.4km)で残らず町並みを形成しており、天保14(1843)年の記録では、人口1392人、本陣1軒、脇本陣2軒、旅籠は74軒ありました。

⑤ 愛宕神社(本郷町)



拝殿前の狛犬は天明5(1785)年の奉納で、現時点で市内で確認されている最古のものです。境内には江戸時代、この地の領主であった「小山藩」の跡が確認されています。

歩く・楽しむ・発見する

日光街道

御徒アブ



日光街道 21



壬生通り

壬生の小道

富士の道分岐から延びる壬生通りは、飯塚宿・壬生宿を通り、榎木宿で日光御所街道と合流する道です。「日光西街道」とも呼ばれていました。壬生通りは、宇都宮を経由する日光街道よりも距離が短く、日光へ行く人にも大いに利用されていたようです。現在、喜沢の道分岐から約650mのところ、壬生通りの一里塚や旧道跡を見ることが出来ます。



① 喜沢の一里塚

この一里塚は江戸から21里目にあたり、日光方面に向かって右側の塚はなく、なつてしまいましたが、左側の塚は榎木林の中にあり、よく保存されています。

徳川吉宗筑波山確認の跡

8代将軍吉宗は、享保13(1728)年に日光社参を行い、4月15日に持宝寺に立ち寄り休憩しました。鹿毛の馬に乗り、稲葉郷の北出口、上石塚村の掃除場に来たとき、掃除人足が平伏していたので「これより東に見える山は何山か」と尋ねたといわれています。「筑波山です」



て約20mありました。



⑪ 新田宿北口の石仏群

寛政12(1800)年の道標を兼ねた馬頭観世音には「左おざく道」とあり、その右側にも道標を兼ねた宝暦2(1752)年の六十六部供養塔があり「左おざく・こくふんじ」と記されています。



⑫ 幕府代官陣屋跡・薬師堂

薬師堂の南側に、この地域の天領を支配した代官所がありました。また、薬師堂の右側近くには、国学者で榎原神社の建立にもかかわった中里瑤斎の墓碑があります。



⑫ 新田宿本陣跡

宿場のほぼ中央、西側に四脚門があり、ここが新田宿の本陣跡といわれています。江戸時代に描かれた絵図には、この場所が問屋、斜め向かいが本陣とも記されています。



一里塚の役割は?

うんちく話

近世の一里塚の起源がいつかははっきりしませんが、江戸幕府が江戸日本橋を起点として一里塚を築いたのは慶長9(1604)年といわれています。一里塚が旅人の目安となったことは言うまでもありませんが、それまで地域ごとにはらばらだった1里の長さを全国的に36町(約4km)に統一させる意味もあったと考えられています。一里塚は道の両側に築かれるのが原則で、塚の上には木が植えられました。そのため旅人は、その木陰で一息いれることもできたのです。



街道名物

室町時代から続く 伝統工芸品・結城紬

結城紬は、室町時代に結城家から、室町幕府や鎌倉藩へ献上されたといわれています。慶長7(1602)年に結城代官・伊奈備前守忠次の振興策によって、特産品として知られるようになったといえます。生産地は、結城市(茨城県)を中心に、鬼怒川の源流に沿った南河内町・小山市・二宮町・上三川町。今でも絹・真綿・糸・織物にいたる一貫した手仕事で、織り機も「いざり機」と呼ばれる原始的な道具が使われる伝統工芸品です。





7 磯宮付近

この辺りに宿場の起源となった「小金井」と呼ばれる井戸があり、徳川将軍は参時の御膳水に使われたといわれます。現在は運動公園として整備され、井戸や磯宮の位置は特定できません。



9 小金井一里塚

明治初年の道路改修の際、旧日光街道のすぐ東側に国道4号が開通したため、取り残される形で保存されました。国指定の史跡となっており、江戸時代の一里塚の様子がよくわかります。江戸から22里目の一里塚です。

10 旧日光街道跡



江戸時代の日光街道は、小金井一里塚北付近から国道4号を西にそれ、新田宿北口の石仏群あたりの水路に沿った部分にあたります。この辺りの道幅は、並未部分も含め



日光山が望めた街道—小さな宿場 新田宿

ここは茅柄新田・大町新田・大町村とも呼ばれたところで、日光街道の宿駅が置かれてから新田宿または新田町とも称されました。明治6(1873)年からは羽川宿と改称され、今は小山市羽川となっています。天保14(1843)年の記録では、宿内の家数59軒(加宿共、うち本陣1、脇本陣1、旅籠11)で人口244人(加宿共)、宿内の町並みも3町余(約400m)と、新田宿は日光街道の宿場ではもっとも小さな宿場でした。江戸時代、このあたりは田畑が広がり、日光山や赤城山・太平山が見渡せたようです。今その風景は望めませんが、本陣を務めたといわれる青木家の木の門などが往時の面影をとどめています。



12 星宮(榎原神社)

江戸時代には星宮と称しましたが、明治5(1872)年に神武天皇を鎮座崇敬したいとの村役人の願いにより榎原神社になったといわれます。参道奥が榎原神社、その左が星宮です。



園によって建てられた下野国分寺と下野国分尼寺がありました。現在、その史跡が保存され、周辺には県立しもつけ風土記の丘資料館や県埋蔵文化財センター、民俗資料館、天平の丘公園、花広場などが整備され、豊かな自然の中で栄華を極めた天平文化に触れることができます。また、近年の調査によって、この下野国分二寺に近い南方から下野薬師寺方面に向かって、古代の官道(幹線道路)である東山道(とうさんどう)が延びていたことがわかっていきます。JRI(金井駅西口)から西へ約4km、タウナー約15分。小金井駅西口に隣り自転車もあり。

【主な行事 国分寺前 祭り】

天平の花まつり 天平の丘公園花広場 4月中旬～5月初旬
園内の花広場を中心に、1000本を超える様々な種類の桜や2600本のツツジが咲き誇り、連日入場では多彩なイベントが行われます。

天平の菊まつり 天平の丘公園花広場 11月初旬～中旬
町の変身会が丹精込めて作った菊が咲き誇ります。菊で作られた車載酒や下野国分寺御巡行の模型は圧巻。また、会場では「天平の平茶会」も行われ、約3000袋の手計が作られます。

⑥ 慈眼寺



上野園の豪族である新田義業により建立(1196)年に創建された古刹です。境内には、江戸時代の建造物として観音堂や鐘楼が現存しています。また、本堂南側には徳川将軍社参の際の御成御殿がありました。



④ 小金井宿日本陣跡

本陣跡を示す門が残されています。この日本陣には、明治22(1889)年に国分寺村が築造したと云、村役場が置かれていました。



⑤ 金井神社

本殿は一間社三方入母屋造りという建築様式で、壁面には天保～嘉永期(1830～50年代)の製作と推定される壮麗な彫刻が施されています。古くから小金井宿の鎮守として信仰されてきた神社でもありました。



⑧ 領主陣屋跡

領主陣屋は佐倉藩の出張陣屋と呼ばれます。現在は菅井菓子店となり、同家は陣屋との直接の関係はないものの、陣屋の代官(出役)を務め、明治以降もこの地に居住した大槻氏の位牌を今も残しています。



【源本 日光東照宮図】(源本 日光東照宮図)

小金井宿は江戸から14番目の宿場。天保14(1843)年の記録では、宿内の長さは南北6町42間(約730m)、本陣と脇本陣が各1軒、旅籠は43軒ありました。日光側から上町・中町・下町となっていて、中町に本陣、脇本陣があったようです。

現在も残る「小金井一里塚」は、旧街道を挟んで左右の塚がほぼ原形をとどめており、日光街道の貴重な遺構の一つとなっています。



1 稲荷神社

1 稲荷神社
 菅原新田を開拓した住民が、万治2(1659)年に創建したといわれます。この地には、古くから稲荷御殿林と号された松林の中に小高い台地があり、神秘的な異趣気を漂わせていたところでした。

[主な行事 南河内町 祭り]			
どんど焼き	町内各所	1月14日	
祇園祭(天主様)	町内	7月中旬	
茅の輪くぐり	祇園神社	7月下旬	
十五夜のわらでっぼう	吉田地区	9月中旬	
愛宕神社祭典	仁良川愛宕神社	11月10・11日	



2 宗師堂

現在は上町公民館となっており、境内には歴代の住僧の墓石と思われる駒塔や地藏などがあります。一説に、この薬師堂の本尊は奈良時代の際である行基の作ともいわれています。

至 下野梁跡寺跡



3 進行寺

元徳元(1329)年、日秀上人の開基で、一説には日行上人の創建ともいわれます。徳川将軍の日光社参の際には、宇都宮城主がこの寺で出迎えることになったといわれています。

行ってみたい
 見どころ
 いろいろ

天平文化を今に伝える
 しもつけ園土記の丘

ここには、今から約1300年前の天平年間に聖武天皇の発



日光街道400年の「むかし」と「いま」を同時に歩こう

徳川家康が日光

東照宮に改葬された元和3

(1617)年に街道・宿場とともに整備さ

れたという日光街道。この日光街道は宇都宮

までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥

州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した

道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着し

ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部

として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を

自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、

現在の姿もまた見つめ直して

みませんか。

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色
(通は赤の貫線、ただし通行不能区画及び比定が異なる区画は破線)で表しました。

御徒マツパについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なってしまっていた。このマツパでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿から鉢石宿までの12宿を中心に6回に分けて編集します。これらの宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめる様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事も残っています。さらに道中の自然や見どころも広く紹介してあります。このマツパを活用して、歩きながら、日光街道の「むかし」と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

- 旧日光街道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 有料道路
- 名所・史跡
- トイレ
- 公園
- 駐車場
- 並木道
- その他のポイント
- 案内看板等
- 観光案内所
- 官公庁

【原本 日光道中絵図 小金井】
(栃木県立博物館蔵)



江戸当時の姿をとどめる一里塚が残る

小金井宿

もとの名である金井村は、宿場の西、鎌宮のあたりにあった小金井の井戸から名付けられたもので、集落も鎌宮付近にありました。慶長9(1604)年までに人家が移り町割が行われ、そのときに村名も小金井に改められたといわれています。

行ってみたいところ
見どころ
いろいろ

天下の三戒壇・下野薬師寺跡

7世紀末に創建された下野薬師寺は、東大寺(奈良県)、筑紫観世音寺(福岡県)と共に「天下の三戒壇」と呼ばれた寺で、宮内(正式の僧)となるための修行の場でした。その遺跡は昭和41(1966)年から発掘調査が行われ、現在「ふるさと歴史の広場」として整備されています。この史跡公園には寺の南西部にあたる崩跡と回廊跡が復元され、北西角には当時の技術を忠実に再現した建物も復元されています。公園に隣接した「下野薬師寺歴史館」(入館は無料)では下野薬師寺の歴史や、一般には馴染みにくい戒壇についてわかりやすく解説されています。JR自治区大駅下車、県道世帯二宮線を東へ約2.5km、徒歩約20分(タクシーで約10分)。



楊木果

吳城

行ってみよ、
見どころ
いろいろ

地水遊瀨良渡

1:10,000

地域の皆さんといっしょに、
みちづくり、まちづくりを進めます。

栃木県内の日光街道沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、歴史や文化を生かしたみちづくり、まちづくりを進めています。400年という時を超え、未来への夢をつなげる日光街道。ここ栃木県でも、地域の大切な文化を地域の皆さんといっしょに活力ある「みち」、魅力ある「まち」へ創造していきます。

栃木県の日光街道



日光街道ルネッサンス21推進委員会

栃木県商工会議所連合会、栃木県観光協会
日光東照宮、下野新聞社、NHK宇都宮放送局
日光市、今市市、宇都宮市、石橋町、上三川町
南河内町、国分寺町、小山市、野木町
国土交通省宇都宮国道事務所、栃木県

【お問い合わせ】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課

〒321-0931 宇都宮市平松町504 TEL.028-638-2185

栃木県土木部道路建設課

〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-2409

小山市建設部都市計画課

〒323-8686 小山市中央町1-1-1 TEL.0285-22-9204

野木町建設課

〒329-0195 下都賀郡野木町大字丸林571 TEL.0280-57-4111(代)

脚ハノヤノが安政3（1858）年に
 発明した赤煉瓦焼成用輪窯（ホフマ
 ノ式円形輪窯）で、現存する煉瓦窯
 は明治23（1890）年に完成したも
 のです。



⑧ 熊野神社

大宝3（703）年に紀州の熊野から移
 されたといわれる由緒ある神社です。
 毎年4月には「ささら獅子舞」が奉納さ
 れます。



⑨ 満福寺

明応元（1492）年に開かれ、古河公
 方足利成氏が建立したといわれます。
 境内には足利成氏の墓や連歌師の猪苗
 代善師の墓 垣内盛光の墓のよまやに



⑥ 野木神社

仁徳天皇の時代に建立されたとい
 う古い神社です。境内には西
 蘇墳のほか、坂上田村麻呂が植
 えたと伝わるイチヨウ（町指定
 文化財）があり、その形状から
 母乳の出ない母親の信仰（乳房
 信仰）を集めています。

⑦ 旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯

⑧ 熊野神社

⑨ 満福寺



4 法音寺 はつおんじ

応永2(1395)年に創建されました。山門の左には安永9(1780)年に建てられた松尾芭蕉の句碑があり「道のへのむくげは馬に喰れけり」と刻まれています。



街通称

野木町のシンボル ひまわり

ひまわりの大群落が見られるのが、ここ野木町。7月、8月の季節になると、町内の至る所で大輪の花が咲き誇る光景に出会えます。

野木町



6 野の宿 のやど 本陣跡 ほんじん

この辺りに野木宿の本陣があり、その向かい側に脇本陣があったといわれています。現在は当時の面影はありませんが、本陣跡に野木宿についての説明板が立っています。



7 旧下野煉化製造会社煉瓦窯 ふるしものれんが

国指定重要文化財です。ドイツ人技師ホーフェンが昭和8(1933)年に



高瀬舟による舟運が盛んだった宿場

野木宿

今は江戸当時の面影はありませんが、野木には日光街道が下総から下野に入って初めての宿場がありました。野木宿は本野木町と新野木町の2町から構成され、本野木町に本陣と脇本陣が各1軒あり、旅籠は25軒、問屋場は本野木町と新野木町に各2ヶ所あったようです。

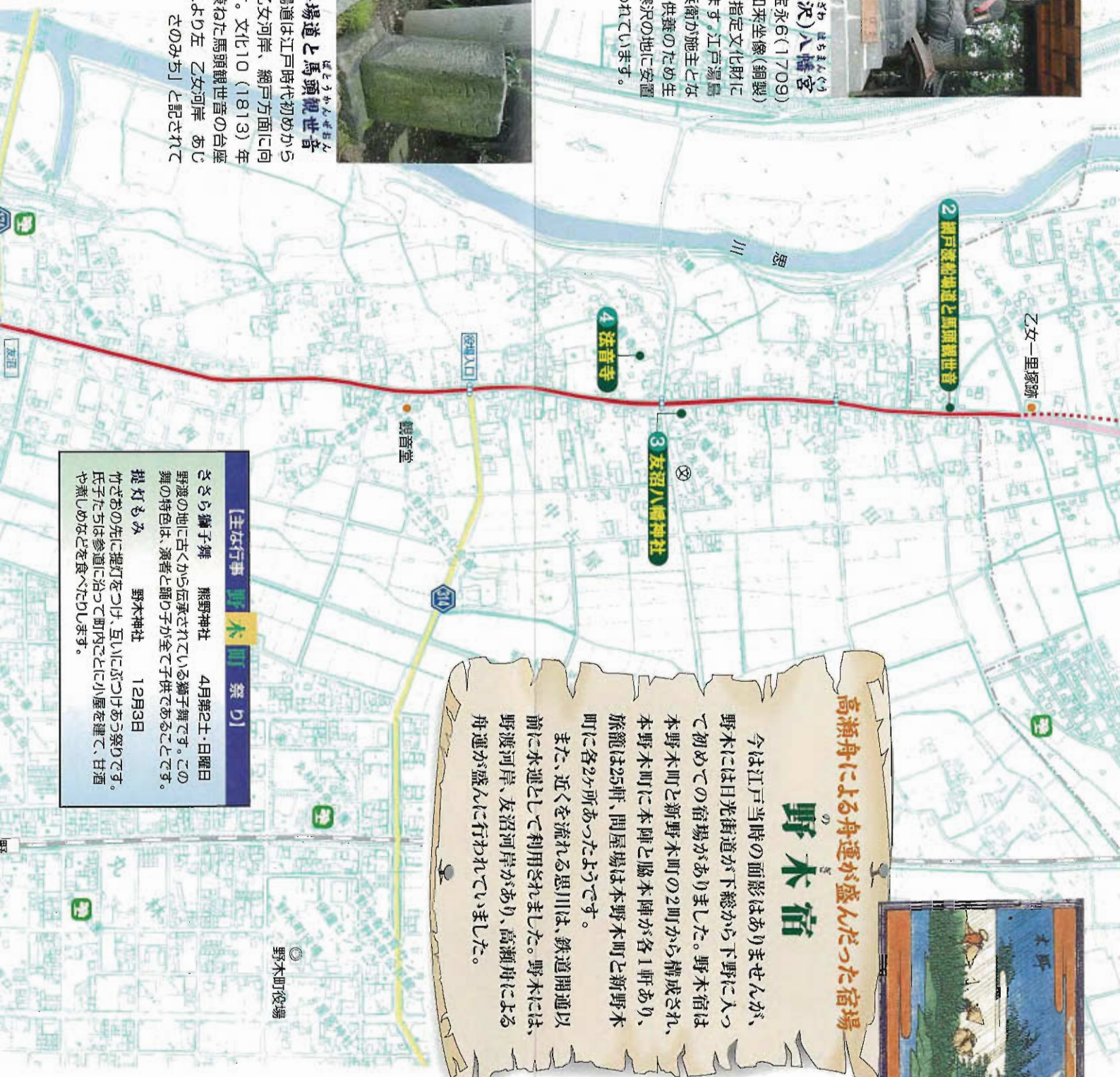
また、近くを流れる思川は、鉄道開通以前に水運として利用されました。野木には、野渡河岸、友沼河岸があり、高瀬舟による舟運が盛んに行われていました。



1 若宮(寒沢)八幡宮
ここには宝永6(1709)年の大日如来坐像(銅製)があり、市指定文化財になっています。江戸湯島の渡部九兵衛が施主となり、父母の供養のため生地である寒沢の地に安置したといわれています。

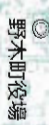


2 網戸渡船場道と馬頭観世音
網戸渡船場道は江戸時代初めから存在し、乙女河岸、網戸方面に向かう道です。文化10(1813)年の道標を兼ねた馬頭観世音の台座には「これより左 乙女河岸 あじととちき さのみち」と記されています。



【主な行事 野木町祭り】

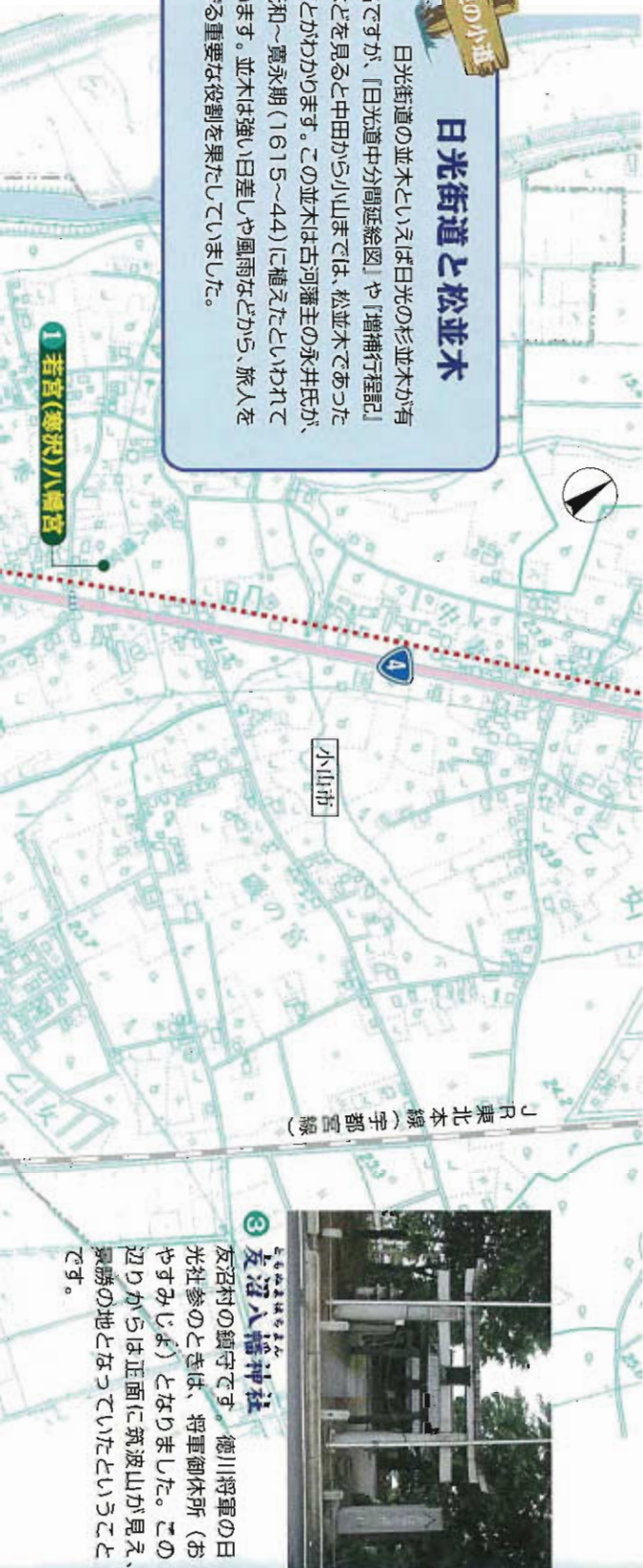
ささら獅子舞 熊野神社 4月第2土・日曜日
野渡の地に古くから伝承されている獅子舞です。この舞の特色は、演者と踊り子が全て子供であることです。
提灯もみ 野木神社 12月3日
竹ざおの先に提灯をつけ、互いにぶつけあう祭りです。氏子たちは参道に沿って町内ごとに小屋を建て、甘酒や煮しめなどを食べたります。



歩く・楽しむ・発見する

日光街道

御徒アジ



歴史の小道

日光街道と松並木

日光街道の並木といえば日光の杉並木が有名ですが、『日光道中分間延絵図』や『増補行程記』などを見ると中田から小山までは、松並木であったことがわかります。この並木は古河藩主の永井氏が、元和～寛永期(1615～44)に植えたといわれています。並木は強い日差しや風雨などから、旅人を守る重要な役割を果たしていました。

③ 友沼入稲神社

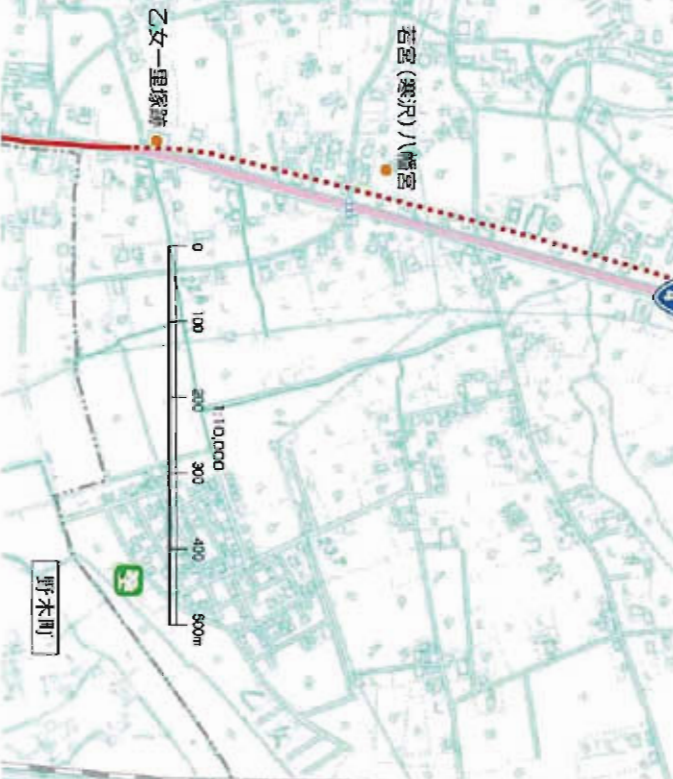
友沼村の鎮守です。徳川将軍の日光社参のときは、将軍御休所(おやすみじよ)となりました。この辺りからは正面に筑波山が見え、景勝の地となっていたということです。



13 乙女八幡宮
おとめはちまんぐわ



参道には元禄16(1703)年の2基の鳥居があり、市指定の文化財となっています。また、手水石は正徳元(1711)年のもので、現時点で市内で確認されている最古のものです。



街道名 下野しほり
しもつり

遣唐使によって伝えられたといわれる揉み紙技法で、江戸時代には「下野ぢぢみ」として、その名が知られていました。女性の結髪用紙・紙子などに用いられましたが、現在は人形など室内装飾品が多く作られています。



江戸時代の乙女河岸の賑わい
えとろがし

現在、乙女大橋が架かるあたりに乙女河岸がありました。この河岸は江戸時代の河川交通の要衝として、政治・経済・文化面において重要な役割を果たしていたところです。特に、慶長5(1600)年、関ヶ原の戦いを前にした会津の上杉征伐の際の物資の陸揚げ場となり、小山評定後、徳川家康が江戸に帰陣するときの乗船場にもなりました。家康の死後は、日光東照社(後の日光東照宮)が造営されていく過程で資材の陸揚げ場となり「日光御用地」とも呼ばれました。

ここには3軒の河岸問屋がありました。日光の御用荷物だけでなく、諸藩の荷物や商人の荷物、周辺の村々の年貢米の積み出し場ともなり、江戸期を通じて重要な河岸となっていたのです。

小山市立博物館には、この乙女河岸の模型が展示しており、江戸時代の賑わいの様子が一目でわかるようになっています。



龍昌寺

慶安4(1651)年、徳川家光の遺骸を日光廟(大猷院)に葬送の途中で、この寺に遺骸の安置所が設けられました。現在、その御霊屋はありませんが、そばに由来碑が建てられ、位牌は今に伝えられています。



泉龍寺・乙女不動尊

昭和56(1981)年11月までは間々田駅入口交差点付近にありましたが、区画整理で現在地に移転しました。境内には松尾芭蕉の句碑があるほか、江戸時代の刻経塔、手水石、灯籠などの石造物が並んでいます。

乙女河岸跡



乙女河岸跡

この河岸は下野国内陸部と江戸などを結ぶ河川交通の要衝として、重要な役割を果たしていました。近くの乙女小学校には、この河岸から出土した扁石の一部と考えられる石柱があります。

(千部宮線)

龍昌寺

泉龍寺・乙女不動尊

乙女不動原瓦窯跡

小山市立博物館

馬頭観世音(通称)

仏光寺

乙女八幡宮

乙女不動原瓦窯跡

奈良時代、下野薬師寺などに瓦を供給した窯跡です。国指定史跡であり、現在は史跡公園として整備されています。



馬頭観世音

文政6(1823)年の馬頭観世音で、道標を兼ねています。台座に「右山川しもつまもろ川、左ままだ小山いづき」と記されています。



仏光寺

徳川2代将軍秀忠から10石の寺領を与えられました。また、本来の日光街道は寺の南付近から乙女一里塚付近まで国道4号の西側を通っていました。現在は畑や宅地になっています。

ります。JH間々田駅から西へ約100m、徒歩約8分。



4 間々田八幡宮

間々田宿の鎮守で、天平年間(729～749)の勧請と伝えられています。境内には松尾芭蕉の句碑「古池や蛙飛びこむ水の音」などがあります。また、5月5日に行われる「蛇祭り」の中心地にもなっています。



5 浄光院

以前は阿弥院等と称したといわれています。境内には観音堂があり、江戸時代の石造仏などもあります。現在の本堂は安永4(1775)年の再興とされ、昭和36(1961)年に上部を改築しました。



6 行泉寺

慶安元(1648)年に白鳥村から移転してきたと伝えられています。



7 達磨の塚

ここから江戸へ18里、日光へ18里で、ちょうど中間に位置していた塚であったため「間の塚」と呼ばれ、いつしか「達磨の塚」に変わりました。祖師堂が建てられ縁結びの塚として、お参りする男女が多かったといわれています。



廓城跡の中城部分にあり、城名のもとになったといわれる神社です。廓城は天保6(康暦2、1380)年~弘和2(永徳2、1382)年の小山露政の乱の舞台となった中世の城郭で、土塁や濠、矢倉台・井戸跡などが残されています。国指定史跡となっています。



2 安房神社

天慶2(939)年、藤原秀郷が平将門討伐のため戦勝を祈願し、守護神として厚く信仰したといわれます。また、中世にも小山・結城・佐野氏や古河公方足利氏などの諸氏からも崇敬を受けたといわれる神社です。

〔版本 日光道中絵図 間々田〕
〔栃木県立博物館蔵〕



参勤交代で賑わった宿場 間々田宿

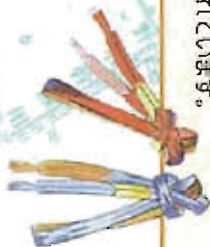
古くは真々田、儘田とも書いた間々田は、元和4(1618)年に宿駅となりました。間々田宿は小山宿・新田宿とともに奥州の諸大名の参勤交代に利用される一方、壬生通りの飯塚宿も含めて日光に参詣する大名や旗本に利用され、重要な位置を占める宿場でした。松尾芭蕉も宿泊地に選んだようですが、どのあたりの宿だったかは定かではありません。

天保14(1843)年の記録によると、宿内には本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠50軒あり、毎年7月11日と12月26日には市が立ったようです。また、米の積み出しに利用された乙女河岸は、江戸期を通じて物資輸送の重要な役割を担っていました。



街並み 間々田ひも

手編みの組ひもで、その技法は鎌倉時代の伝統を引き継いでいます。刀の下げ緒、甲冑の紐として使われましたが、今は帯紐や羽織紐など民芸品として珍重されています。



3 旧日光街道跡

大橋農場の北側に国道4号に沿って小道があります。これが本来の日光街道の名残で、近くには人夫や旅人の休憩場である立場がありました。



行ってみよう！
見どころ
いろいろ

小山市立博物館

原始、古代から近・現代に至るまでの小山の歴史資料と自然関係資料が豊富にそろっています。常設展示、企画展示のほか、館内には体験学習室や視聴覚室などもあります。10時～17時開館(入館料200円)



日光街道400年の「むかし」と「いま」を同時に歩こう

徳川家康が日光東照宮に改葬された元和3

(1617)年に街道・宿場がともに整備されたという日光街道。この日光街道は宇都宮

までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した道で、宇都宮からは1つの宿場を経て日光に到着します。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を

自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、現在の姿もまた見つめ直してみませんか。

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色(別は茶の裏表、ただし通行不能区画及び比定が不明な区画等は破線)で表しました。

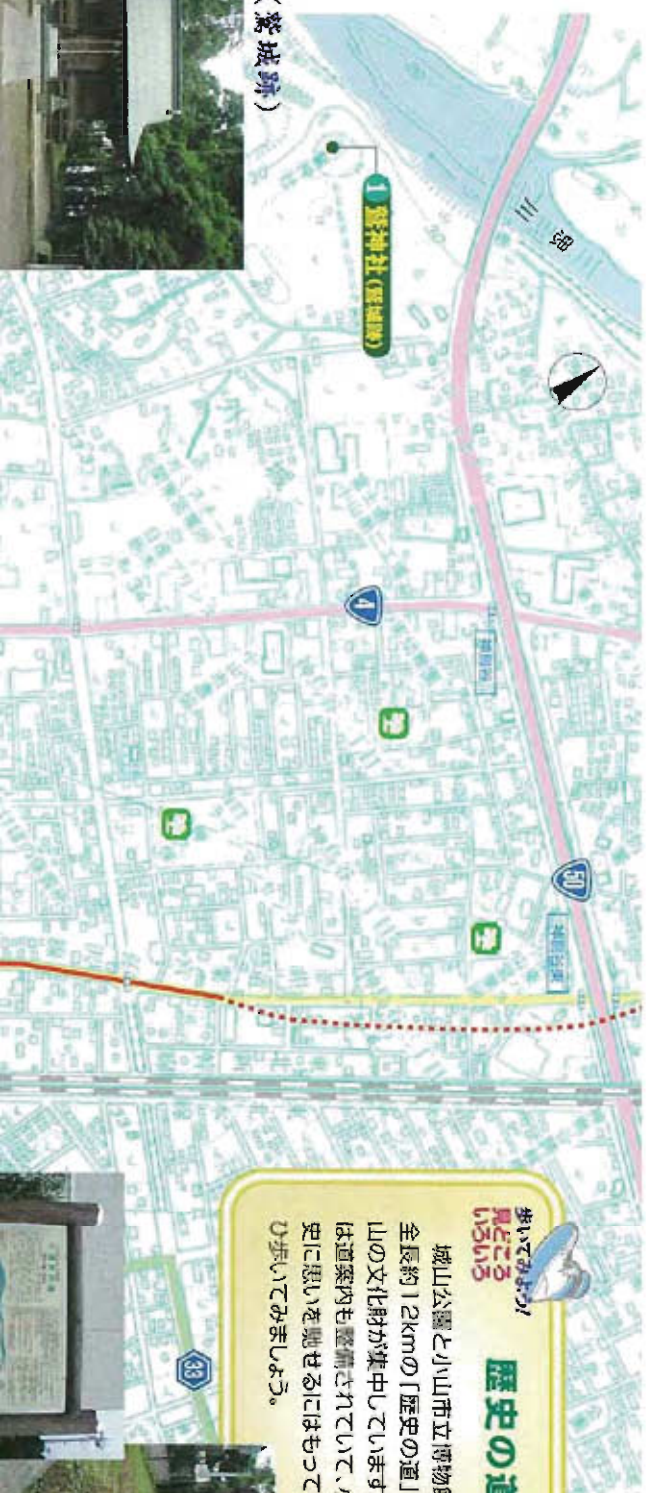
御徒マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっていました。このマップでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これらの宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残を残すところある様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介してあります。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の「むかし」と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

旧日光街道	名所・史跡	その他のポイント
一般国道	トイレ	案内看板等
主要地方道	公園	観光案内所
一般県道	駐車場	官公庁
有料道路	並木道	

1 鷲神社(鷲城跡)



歩いてみよか？ 見どころ いろいろ

歴史の道

城山公園と小山市立博物館を結ぶ全長約12kmの「歴史の道」には、小山の文化財が集中しています。沿道には道案内も整備されていて、小山の歴史に思いを馳せるにはもってこい。ぜひ歩いてみましょう。

